

大口町高齢者ほほえみ計画

(第8期介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画)

策定のための高齢者等実態調査結果の概要

第1 一般高齢者調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 第2 在宅認定者調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

○調査方法

区 分		対象者	調査方法
一般高齢者調査	65歳以上	要支援・要介護の認定を受けていない65歳以上の大口町在住の人（無作為抽出）	郵送による配布・回収
	ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯	要支援・要介護の認定を受けていない65歳以上のひとり暮らし・75歳以上の高齢者世帯の大口町在住の人（全数）	民生委員による配布・回収
在宅認定者調査	要支援認定者	在宅で要支援の認定を受けている大口町在住の人（事業対象者を含む全数）	地域包括支援センター職員による配布・回収
	要介護認定者	在宅で要介護の認定を受けている大口町在住の人（全数）	高齢者福祉協力員による配布・回収
介護支援専門員調査		大口町内で活動している介護支援専門員（全数）	町職員による配布・介護支援専門員持参

□調査基準日：令和元年12月1日

□調査期間：令和元年12月7日～令和2年1月20日

○回収結果

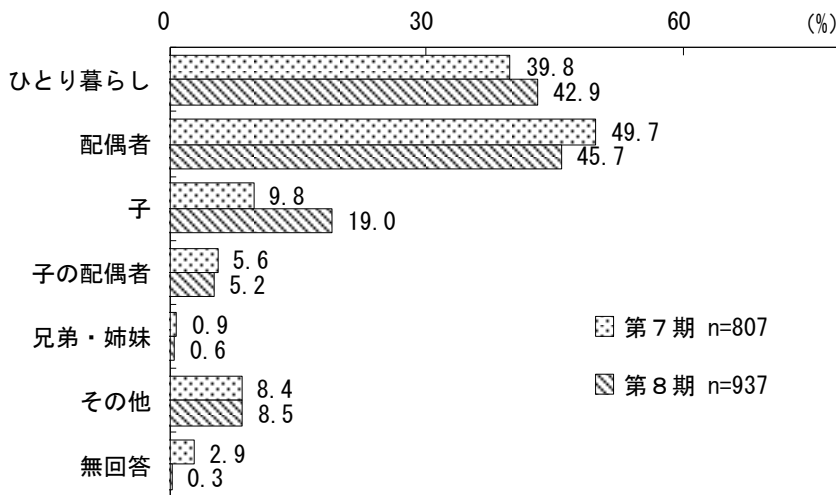
区 分		配布数	回収数	回収率
一般高齢者調査		1,186	952	80.3%
	65歳以上	500	337	67.4%
	ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯	686	615	89.7%
在宅認定者調査		426	400	93.9%
	要支援認定者（事業対象者を含む）	181	167	92.3%
	要介護認定者	245	233	95.1%
介護支援専門員調査			26	

第1 一般高齢者調査

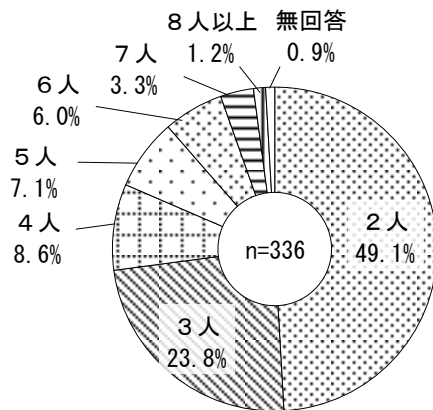
1 世帯の状況について

- 同居家族の状況を見ると、「配偶者（夫・妻）」が45.7%、「ひとり暮らし」が42.9%、「子」が19.0%、「その他」が8.5%、「子の配偶者」が5.2%となっています。第7期の調査結果に比べ「ひとり暮らし」が3ポイント以上上昇しています（図表1）。
- ひとり暮らし以外の世帯における同居家族の人数は「2人」が49.1%と最も高く、次いで「3人」が23.8%、「4人」が8.6%などとなっています（図表2）。

図表1 同居家族（複数回答）

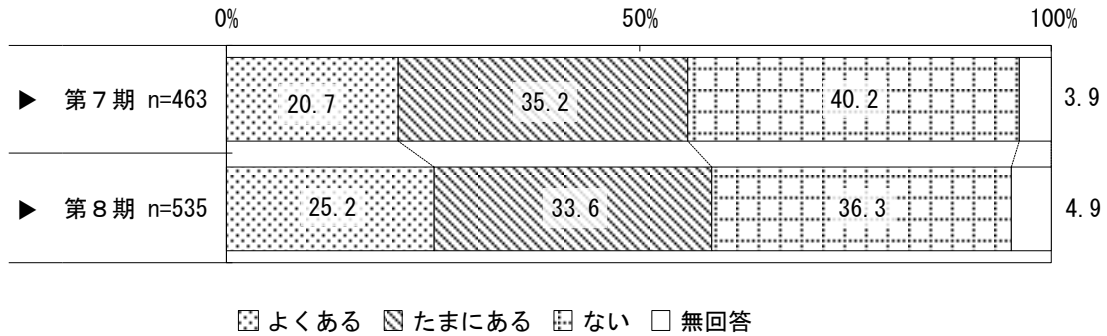


図表2 同居家族の人数（ひとり暮らしを除く）



■ひとり暮らし以外の世帯に対する「日中、6時間程度一人になることがありますか」という設問については、「よくある」が25.2%、「たまにある」が33.6%となっています。第7期の調査結果に比べ「よくある」が4.5ポイント上昇しています。

図表3 日中、6時間程度一人になることがあるか

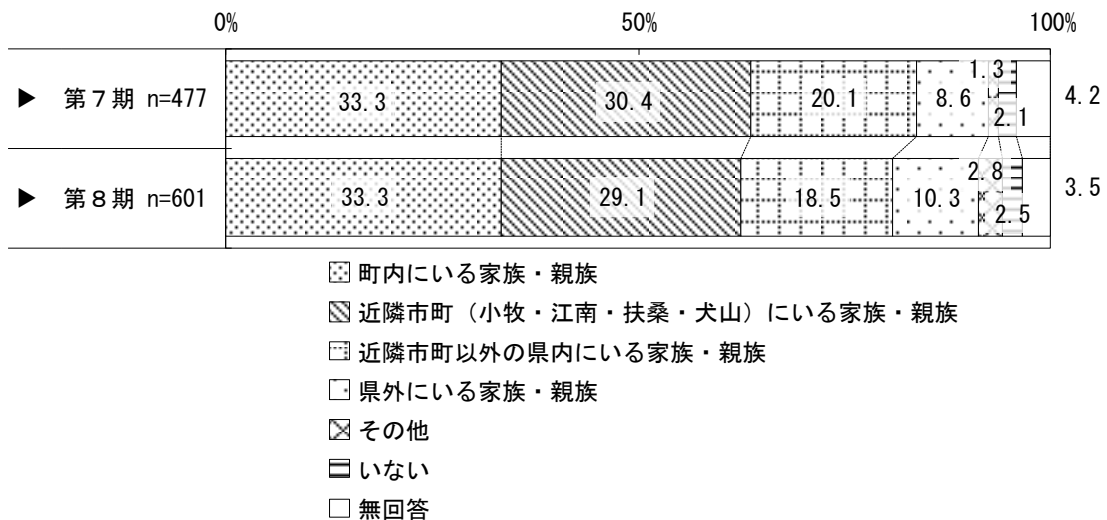


2 緊急時等の連絡について<ひとり暮らし及び高齢者世帯>

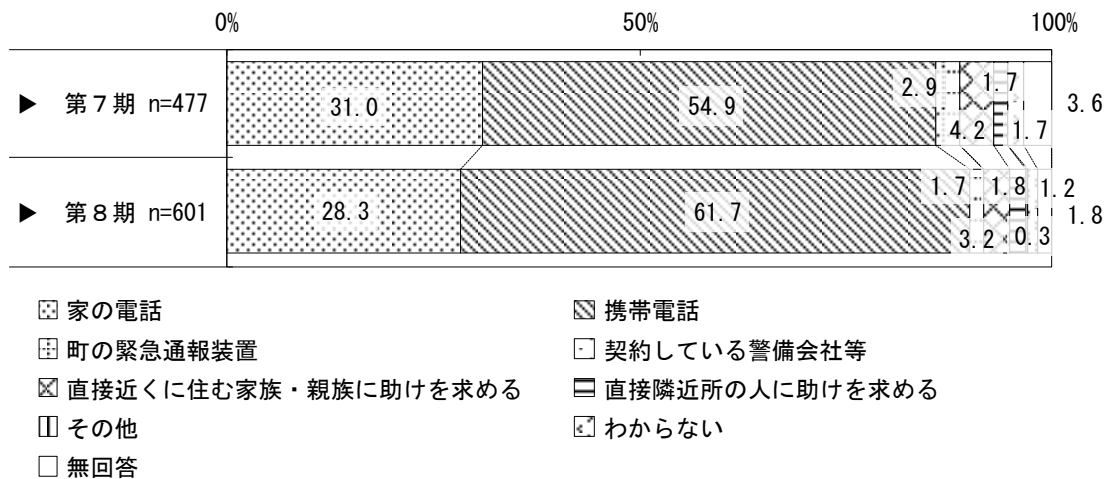
■ひとり暮らし及び高齢者世帯に、緊急の時に連絡する人についてお聞きしたところ、「町内にいる家族・親族」が33.3%と最も高く、次いで「近隣市町（小牧・江南・扶桑・犬山）にいる家族・親族」が29.1%となっています（図表4）。

■緊急の時の連絡方法としては、「携帯電話」が61.7%と最も高く、次いで「家の電話」が28.3%となっています。第7期の調査結果に比べ「家の電話」が低下し、「携帯電話」が大幅に上昇しています（図表5）。

図表4 緊急時に連絡する人（一般高齢者調査（ひとり暮らし・高齢者世帯））

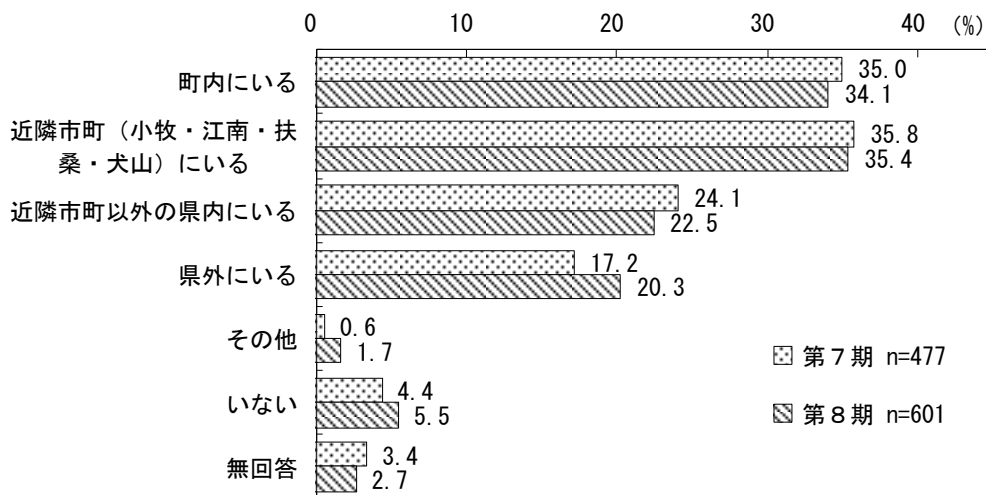


図表5 緊急時の連絡方法（一般高齢者調査（ひとり暮らし・高齢者世帯））

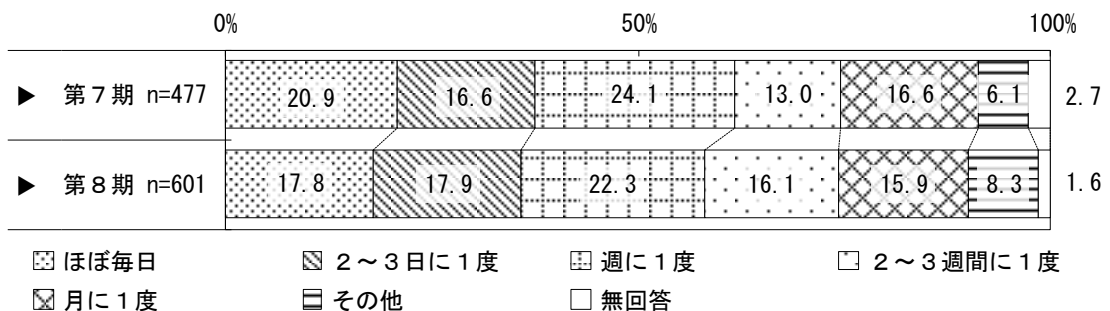


- ふだん連絡を取り合っている家族の有無については、「近隣市町（小牧・江南・扶桑・犬山）にいる」が35.4%と最も高く、次いで「町内にいる」が34.1%となっています（図表6）。
- ふだん連絡を取り合っている家族との連絡頻度は、「週に1度」が22.3%と最も高く、次いで「2～3日に1度」が17.9%、「ほぼ毎日」が17.8%などとなっています。第7期の調査結果に比べ「ほぼ毎日」が3ポイント以上低下しています（図表7）。

図表6 ふだん連絡を取り合っている家族の有無



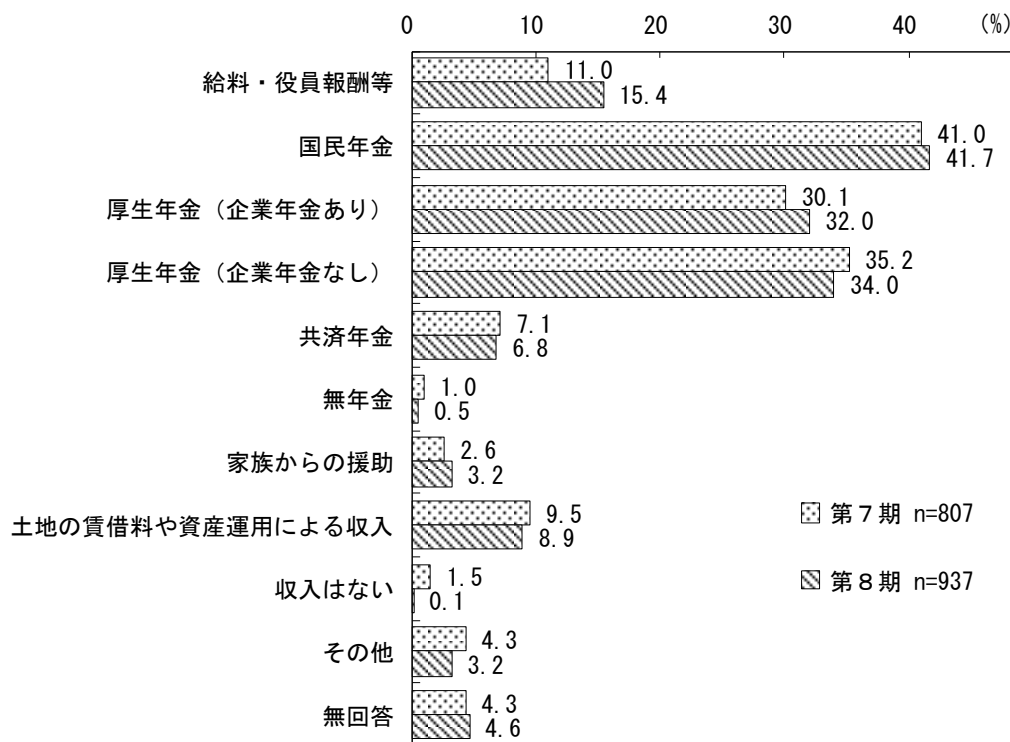
図表7 ふだん連絡を取り合っている家族との連絡頻度



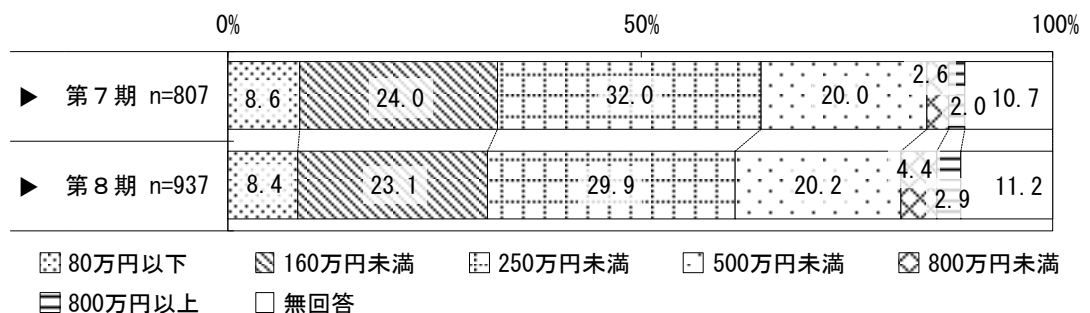
3 暮らしの状況について

- どのような収入があるかお聞きしたところ、「国民年金」が41.7%と最も高く、次いで「厚生年金（企業年金なし）」が34.0%、「厚生年金（企業年金あり）」が32.0%などとなっています（図表8）。
- 1年間の世帯収入は、「250万円未満」が29.9%と最も高く、次いで「160万円未満」が23.1%、「500万円未満」が20.2%などとなっています（図表9）。
- 現在の暮らしの状況については、「ふつう」が55.3%と最も高く、次いで、「やや苦しい」が22.7%となっています。「大変苦しい」と「やや苦しい」との合計は29.5%であり、第7期の調査結果に比べ2.3ポイント低下しています（図表10）。

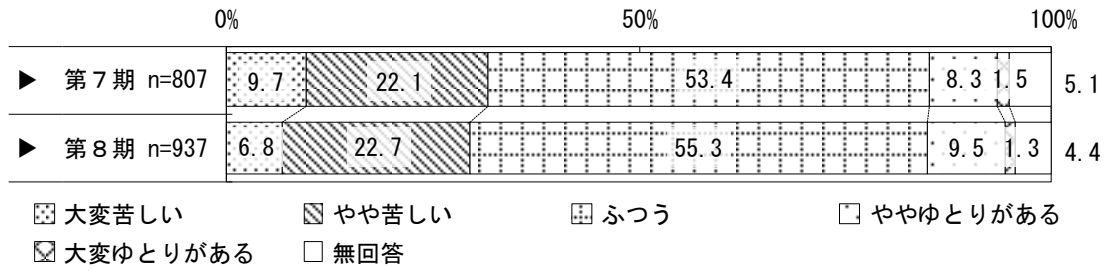
図表8 収入について（複数回答）



図表9 1年間の世帯収入



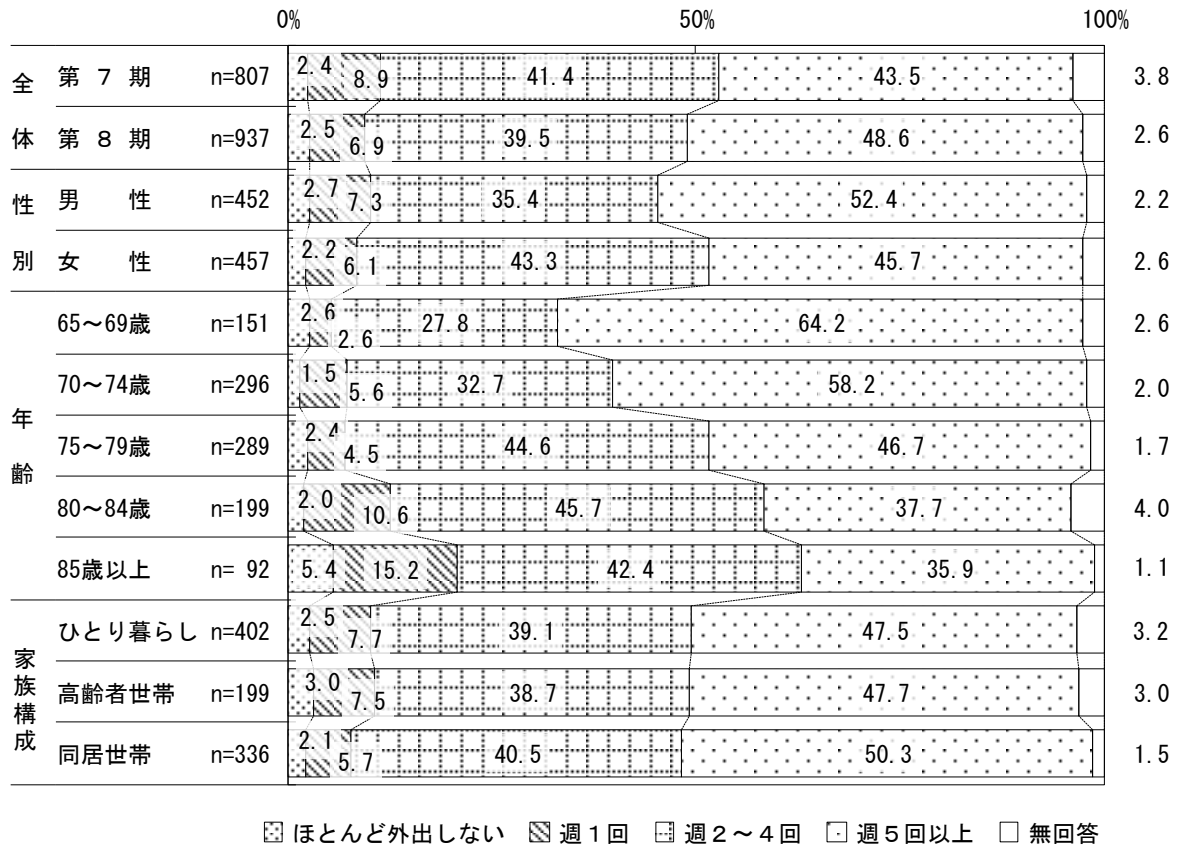
図表10 暮らしの状況



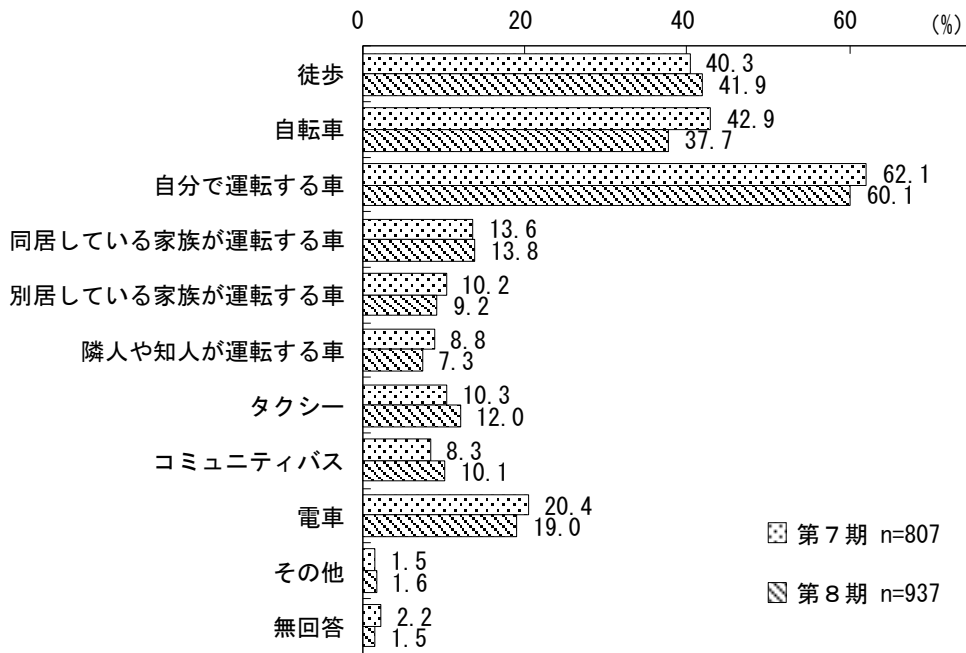
4 外出について

- 「週1回以上は外出していますか」という設問では、「週5回以上」が48.6%と最も高く、次いで「週2～4回」が39.5%となっています。一方、「外出しない」は2.5%です。性別にみると、男性は「週5回以上」が52.4%であるのに対し女性は45.7%と5ポイント以上の差があります。年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい外出頻度は低くなる傾向にあります（図表11）。
- 外出する際の移動手段としては、「自分で運転する車」が60.1%と最も高く、次いで「徒歩」が41.9%、「自転車」が37.7%などとなっています。第7期の調査結果に比べ「自転車」や「自分で運転する車」が低下しているのに対し、「タクシー」「コミュニティバス」が上昇しています（図表12）。

図表11 外出頻度

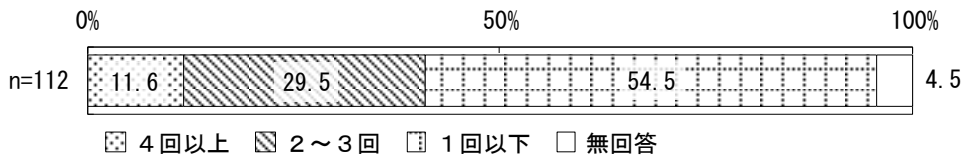


図表12 外出する際の移動手段（複数回答）

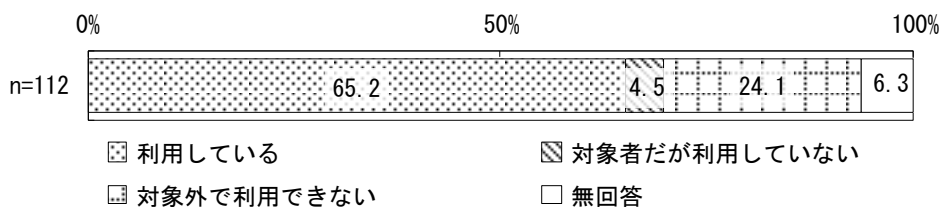


- 外出の際、タクシーを利用している人の1か月あたりの利用頻度をみると、「1回以下」が54.5%を占めています（図表13）。
- 外出の際、タクシーを利用している人で外出支援サービス（タクシー料金の助成）を「利用している」人は65.2%です（図表14）。
- 外出支援サービスを利用してタクシーを利用している人に、外出支援サービスでコミュニティバスが利用できるとしたら、利用するかお聞きしたところ、「利用する」が74.0%を占めています（図表15）。

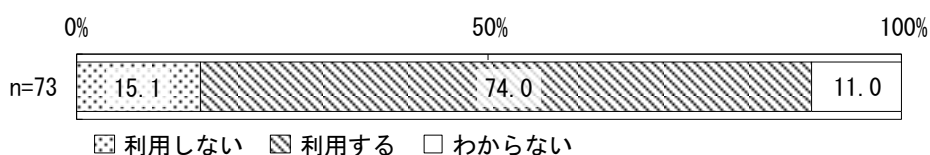
図表13 タクシーの利用頻度



図表14 外出支援サービス（タクシー料金の助成）の利用状況



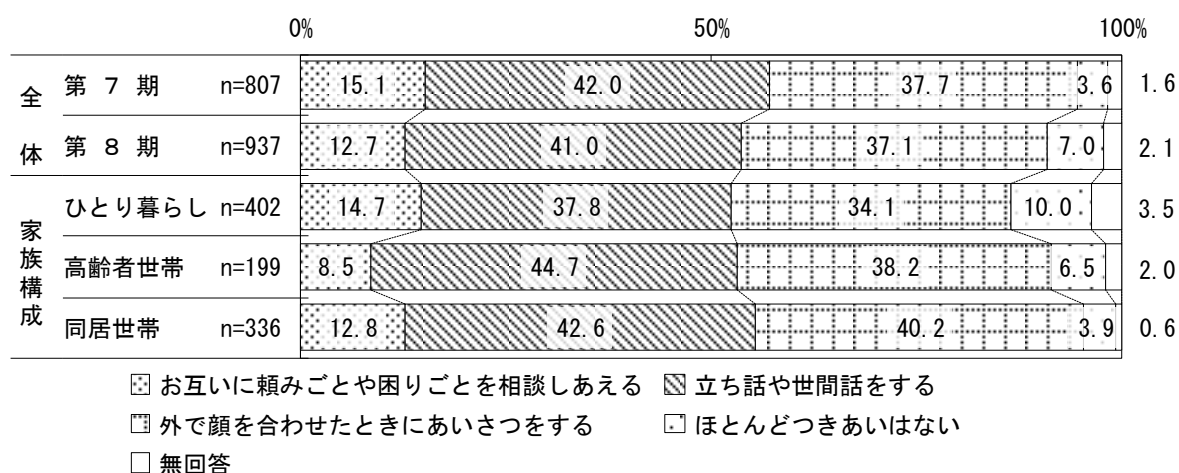
図表15 外出支援サービスでコミュニティバスが利用できるとしたら利用するか



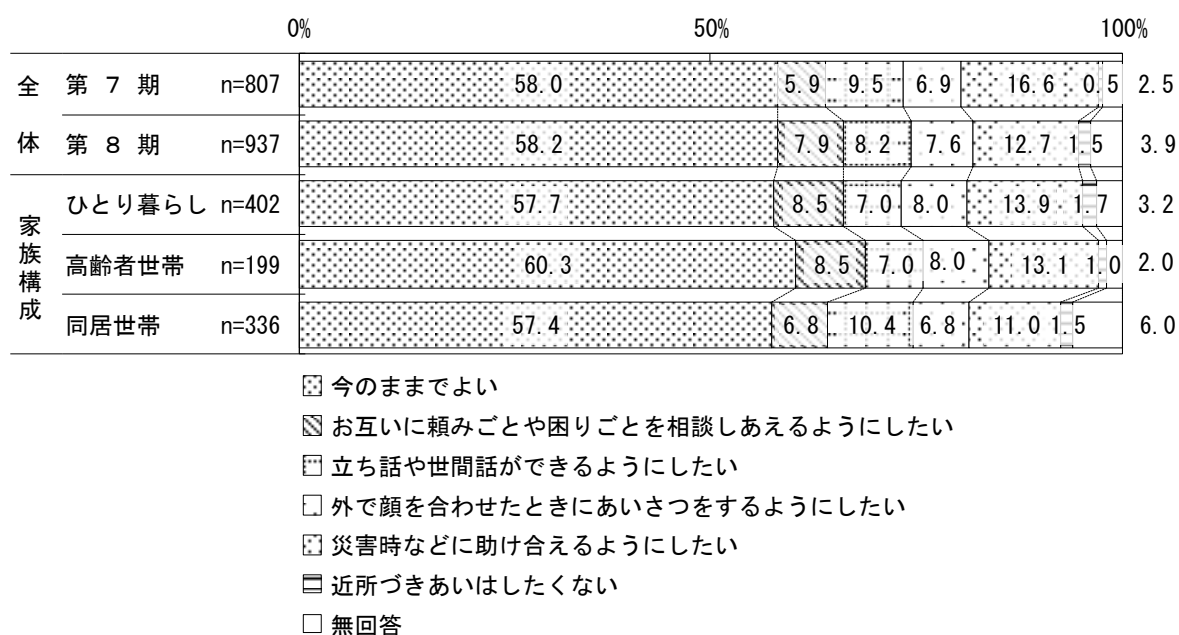
5 近所の人との交流について

- 近所の人との交流についてみると、「立ち話や世間話をする」が41.0%と最も高く、次いで「外で顔を合わせたときにあいさつをする」が37.1%となっています。第7期の調査結果に比べ「ほとんどつきあいはない」が3ポイント以上上昇しています。なお、ひとり暮らしでは、最も深い交流の程度を示す「頼みごとをお互いにしたり、困りごとを相談しあえる」が14.7%と比較的高くなっている一方、「ほとんどつきあいはない」も10.0%あります（図表16）。
- 近所の人との今後の交流については、「今のままでよい」が58.2%を占めています。次いで「災害時などに助け合えるようにしたい」が12.7%となっています。ひとり暮らし及び高齢者世帯では「災害時などに助け合えるようにしたい」が同居世帯より高くなっています（図表17）。

図表16 近所の人との交流



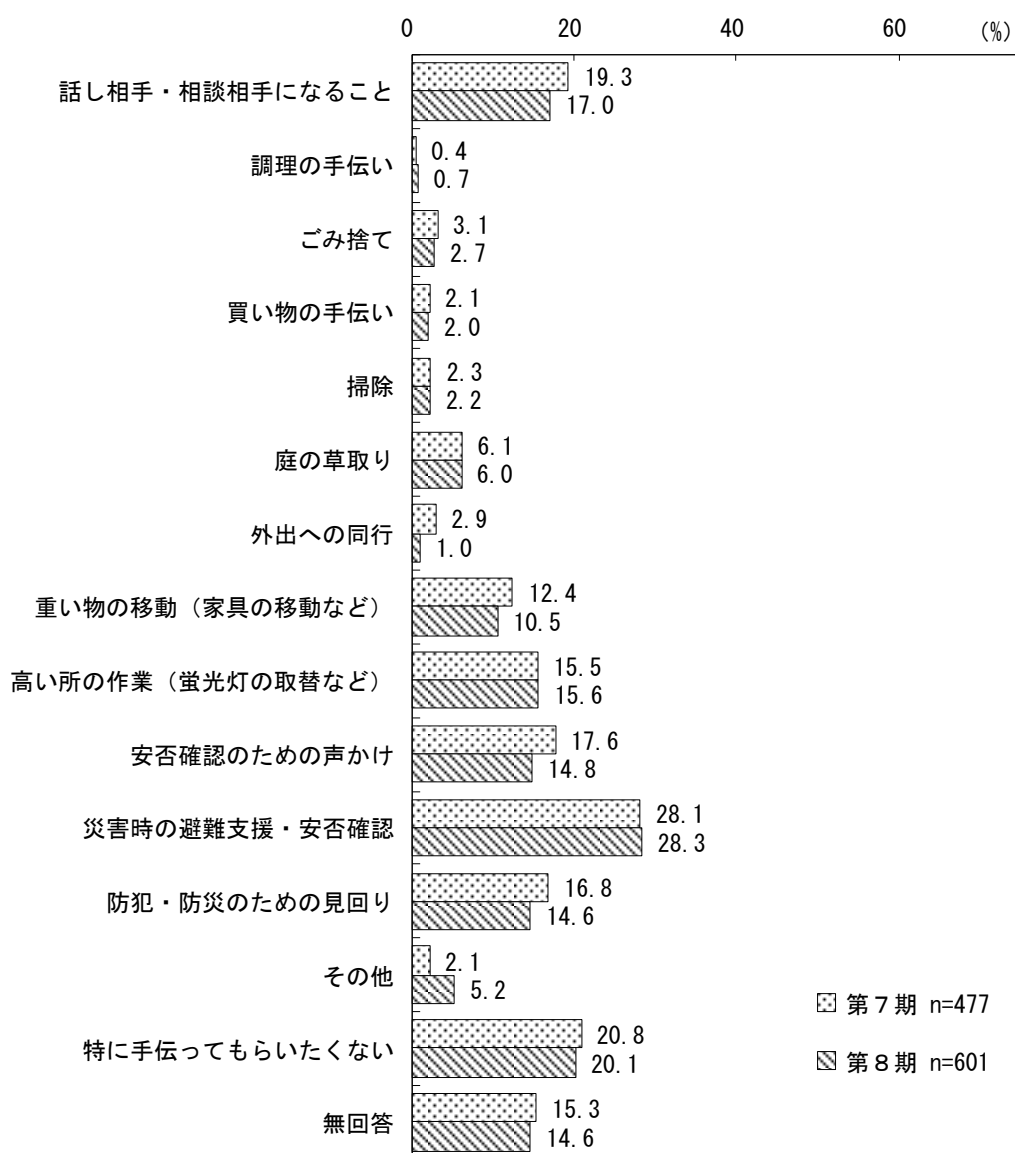
図表17 近所の人との交流を今後どうしたいか



6 地域の助け合いについて

■ひとり暮らし及び高齢者世帯に、ご近所や地域の人に、どのようなことを手伝ってもらいたいかをお聞きしたところ、「災害時の避難支援・安否確認」が28.3%と最も高く、次いで「話し相手・相談相手になること」が17.0%、「高い所の作業（蛍光灯の取替など）」が15.6%、「安否確認のための声かけ」が14.8%、「防犯・防災のための見回り」が14.6%、「重い物の移動（家具の移動など）」が10.5%などとなっています。「特に手伝ってもらいたくない」は20.1%でした。

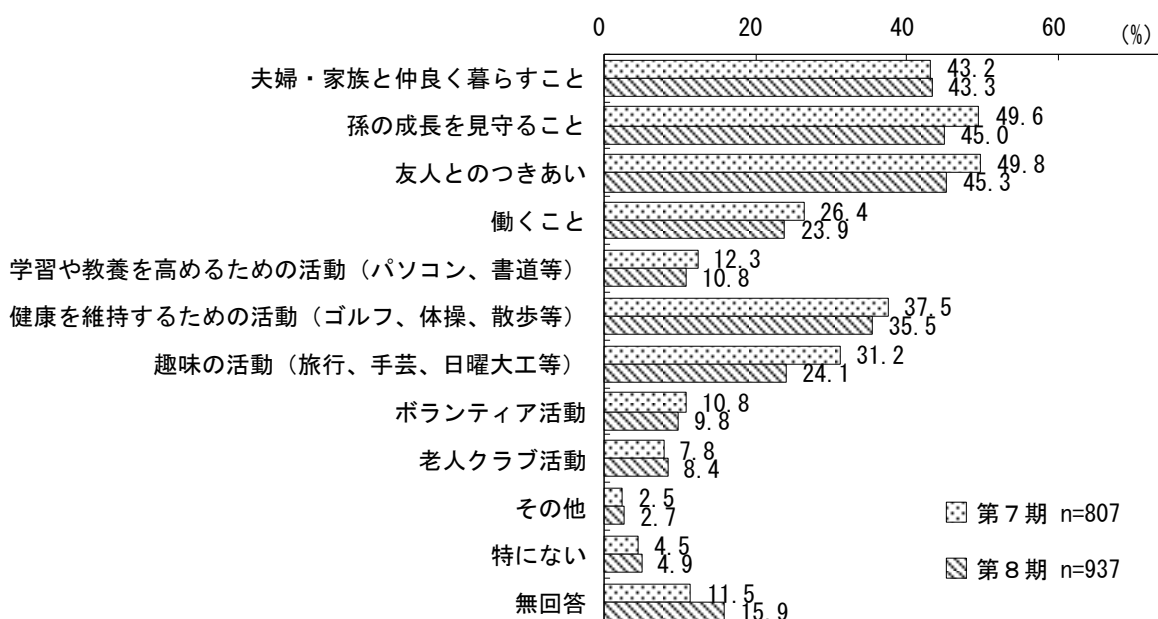
図表18 ご近所や地域の人から手伝ってもらいたいこと（複数回答）



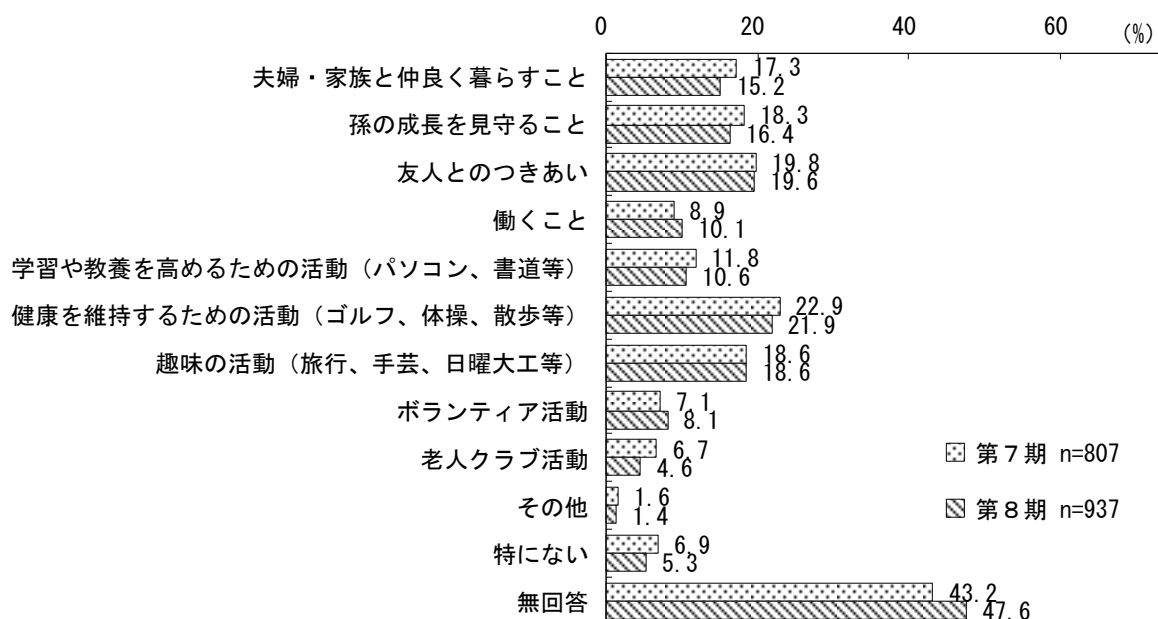
7 生きがいについて

- 現在、生きがいを感じていることとしては、「友人とのつきあい」が45.3%と最も高く、次いで「孫の成長を見守ること」が45.0%、「夫婦や家族と仲良く暮らすこと」が43.3%、「健康を維持するための活動（ゴルフ、体操、散歩等）」が35.5%などとなっています（図表19）。
- 今後、やりたいこととしては、「健康を維持するための活動（ゴルフ、体操、散歩等）」が21.9%、「友人とのつきあい」が19.6%、「趣味の活動（旅行、手芸、日曜大工等）」が18.6%と、健康維持や趣味などの活動に関する項目が比較的高くなっています。（図表20）

図表19 現在、生きがいを感じていること（複数回答）



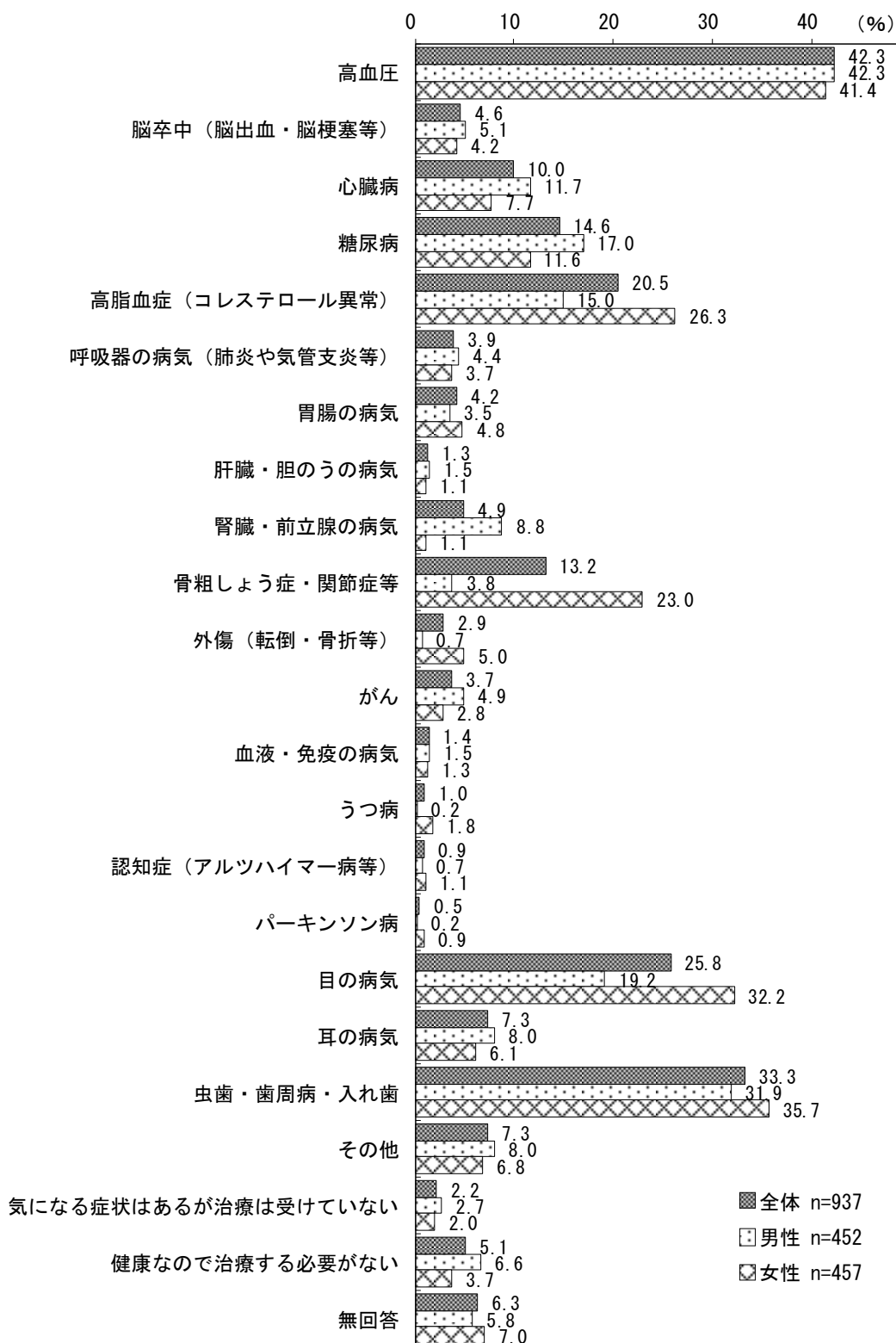
図表20 今後、やりたいこと（複数回答）



8 健康・医療について

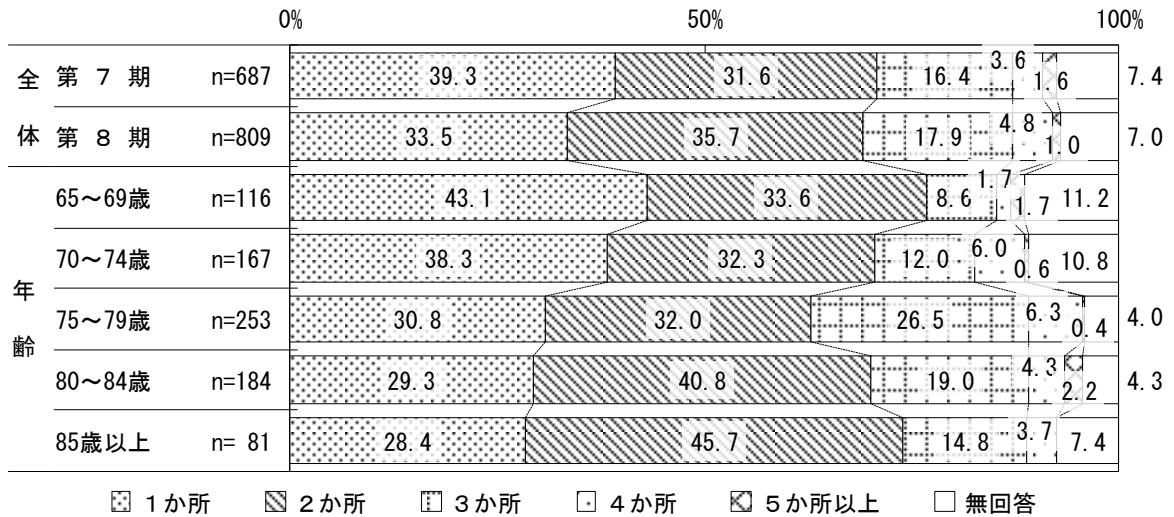
■現在、治療中または後遺症ある病気は、「高血圧」が42.3%と最も高く、次いで「虫歯・歯周病・入れ歯」が33.3%、「目の病気」が25.8%などとなっています。性別により5ポイント以上の差があるのは、男性が高い「糖尿病」「腎臓・前立腺の病気」、女性が高い「骨粗しょう症・関節症等」「高脂血症(脂質異常)」「目の病気」です。

図表21 現在、治療中または後遺症ある病気（複数回答）



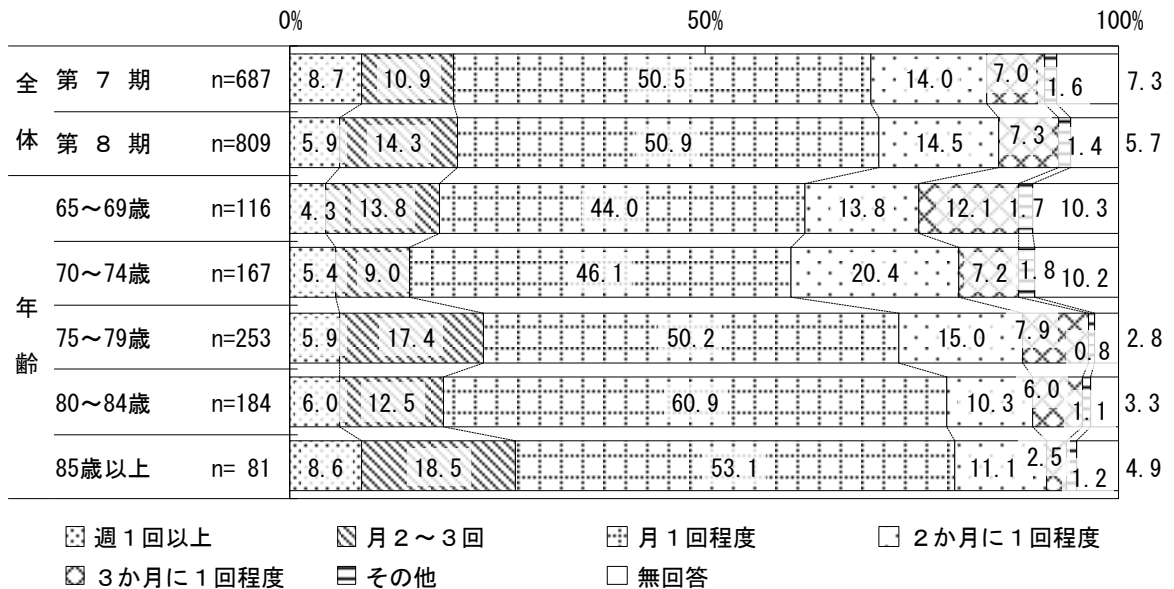
■現在、治療中の809人に、何か所の医療機関に通院しているかお聞きしたところ、「2か所」が35.7%と最も高く、次いで「1か所」が33.5%となっています。第7期の調査結果に比べ「2か所」～「4か所」が上昇しています。

図表22 通院か所数



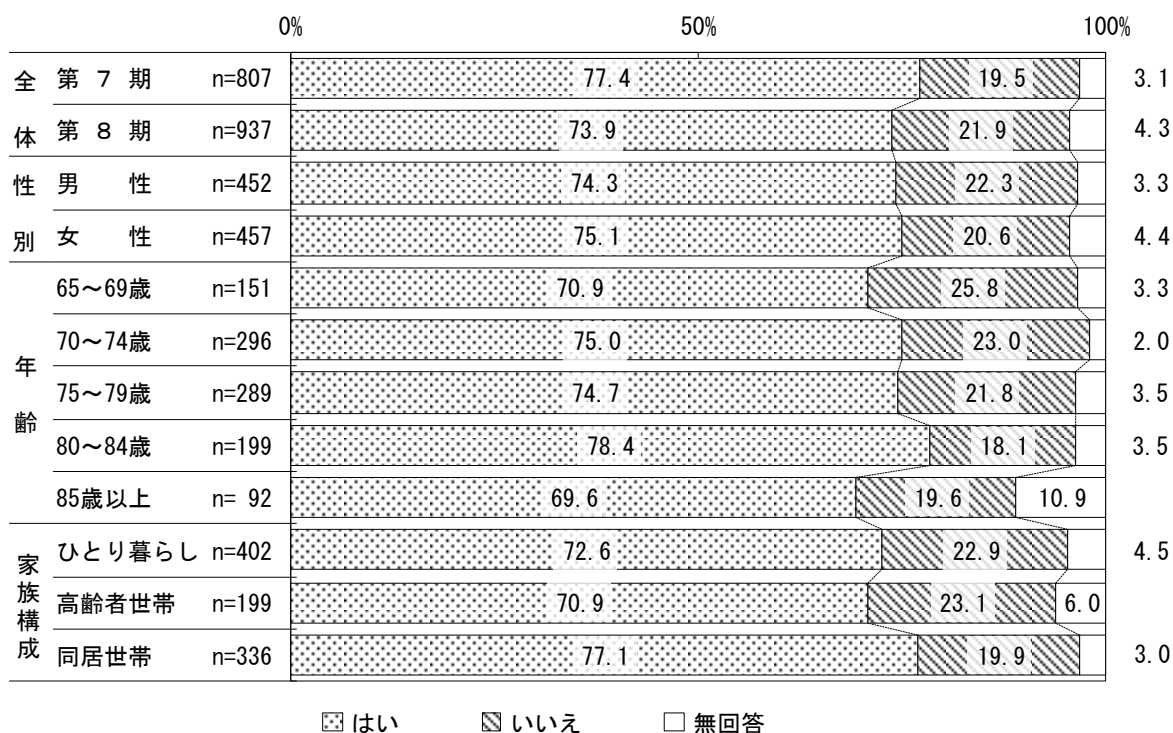
■現在、治療中の809人に、通院（往診を含む）回数をお聞きしたところ、「月1回程度」が50.9%を占めており、次いで「2か月に1回程度」が14.5%、「月2～3回」が14.3%です。

図表23 通院回数

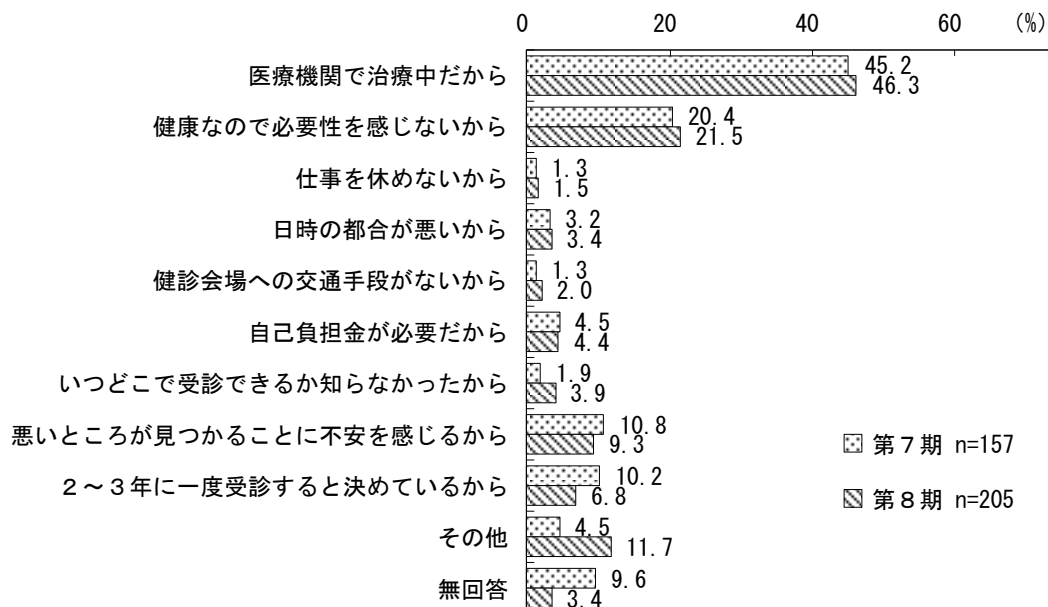


- 「この1年間に健康診査を受診しましたか」という設問については、「はい」が73.9%で、第7期の調査結果に比べ3.5ポイント低下しています。年齢別にみると、80～84歳の受診率が80%近い高い率となっています。家族構成別では、高齢者世帯の受診率が70.9%と若干低くなっています（図表24）。
- 健康診査を受診しなかった人に、その理由をお聞きしたところ、「医療機関で治療中だから」が46.3%と最も高く、次いで「健康なので必要性を感じないから」が21.5%などとなっています（図表25）。

図表24 この1年間に健康診査を受診したか

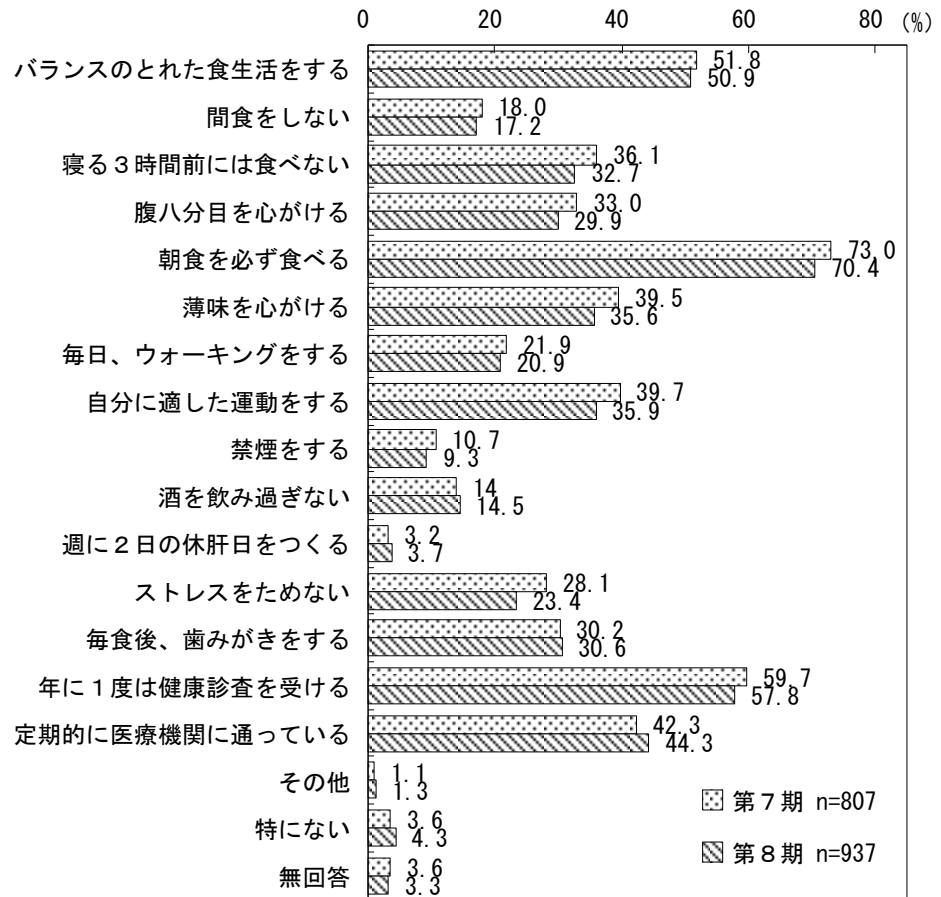


図表25 未受診の理由（複数回答）



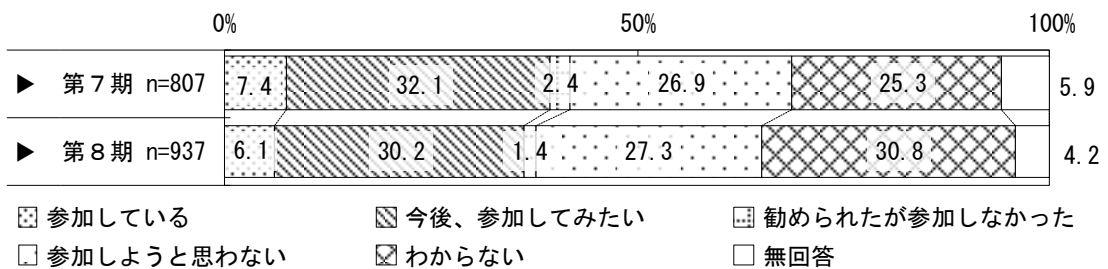
■健康を維持するために取り組んでいることとしては、「朝食を必ず食べる」が70.4%と最も高く、次いで「年に1度は健康診査を受ける」が57.8%、「バランスのとれた食生活をする」が50.9%となっています。

図表26 健康を維持するための取り組み（複数回答）



■転倒予防・筋力向上・健康増進など介護予防の教室やトレーニングに参加したいかをお聞きしたところ、「参加している」(6.1%)と「今後、参加してみたい」(30.2%)の合計《参加の意向》は36.3%で、第7期の調査結果に比べ3.2ポイント低下しています。

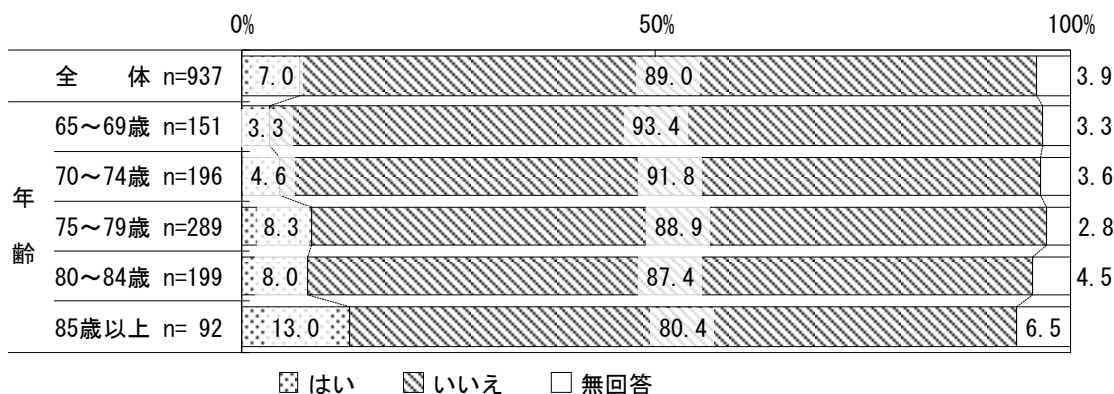
図表27 介護予防の教室等への参加意向



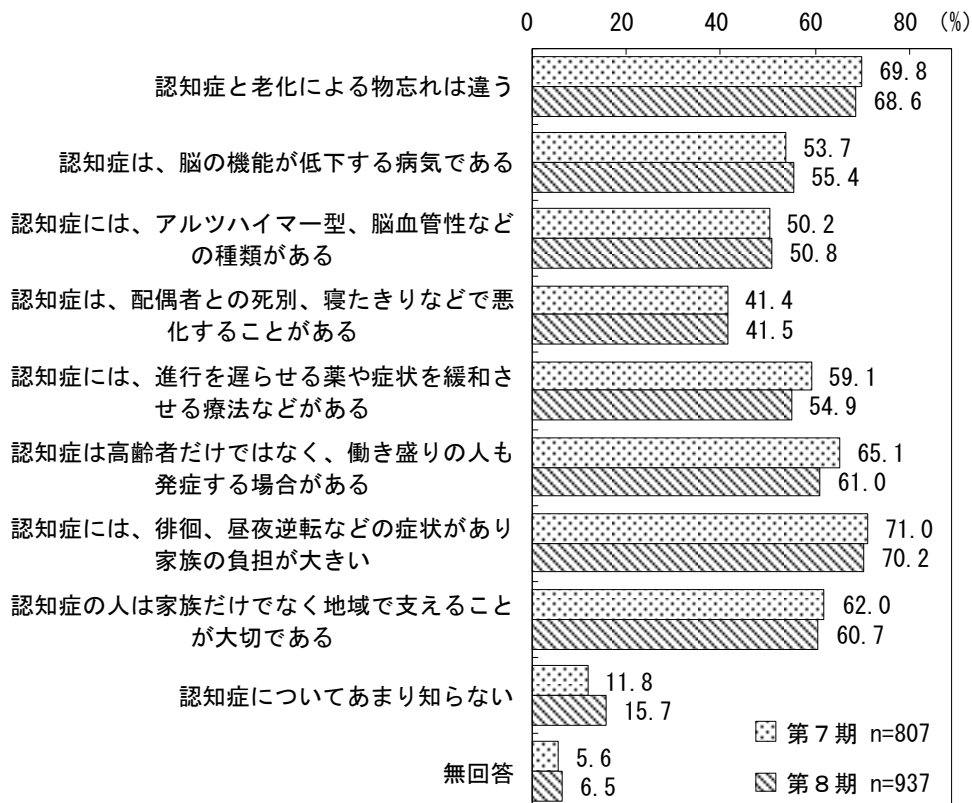
9 認知症について

- 「認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状のある人がいますか」という設問では「はい」は7.0%ですが、年齢別にみると85歳以上になると10%を超えます（図表28）。
- 認知症について知っていることをお聞きしたところ、「認知症には、徘徊、昼夜逆転などの症状があり家族の負担が大きい」は70%以上、「認知症と老化による物忘れは違う」「認知症は高齢者だけではなく、働き盛りの人も発症する場合がある」「認知症の人は家族だけでなく地域で支えることが大切である」は60%以上の人が認識しています。第7期の調査結果に比べ「認知症についてあまり知らない」が約4ポイント上昇しています（図表29）。

図表28 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状のある人がいるか



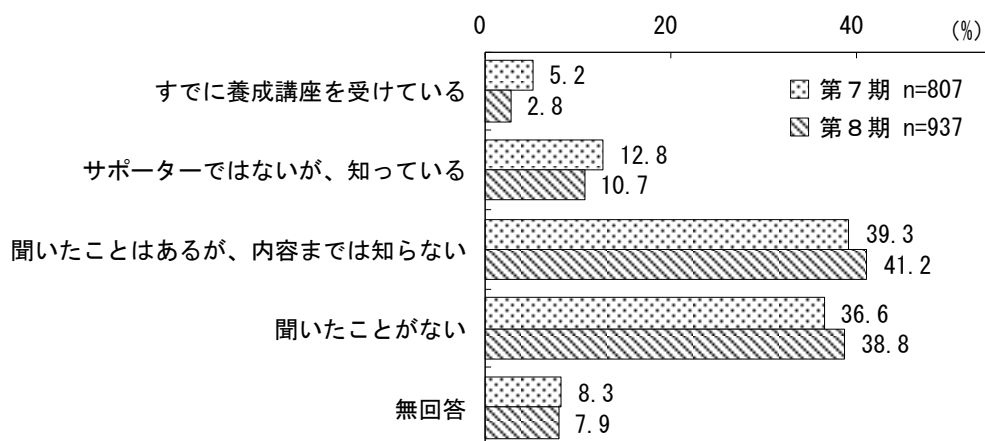
図表29 認知症について知っていること（複数回答）



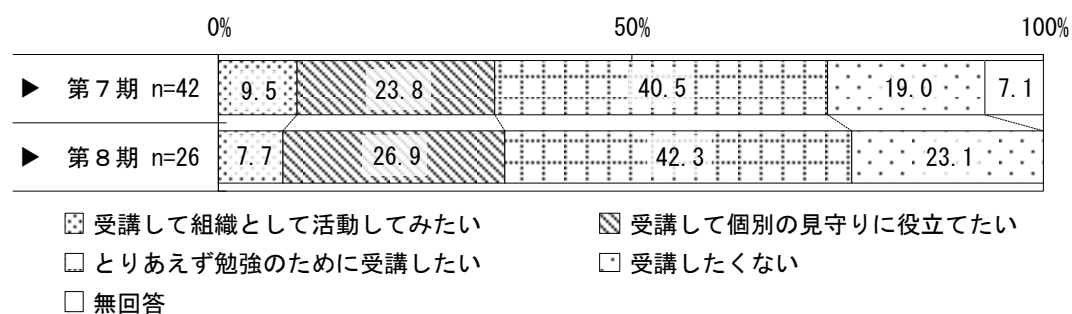
■ 認知症サポーターについてどの程度知っているかたずねたところ、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が41.2%と最も高く、次いで「聞いたことがない」が38.8%となっています。第7期の調査結果に比べ「すでに養成講座を受けている」及び「サポーターではないが、知っている」が低下しています（図表30）。

■ 「すでに養成講座を受けている」と答えた人に、認知症サポーターとして活動するための講座（ステップアップ講座）を受講したいかをお聞きしたところ、「とりあえず勉強のために受講したい」が42.3%、「受講して個別の見守りに役立てたい」が26.9%、「受講して組織として活動してみたい」が7.7%です。これらを合計した受講希望は76.9%です（図表31）。

図表30 認知症サポーターの認知度（複数回答）



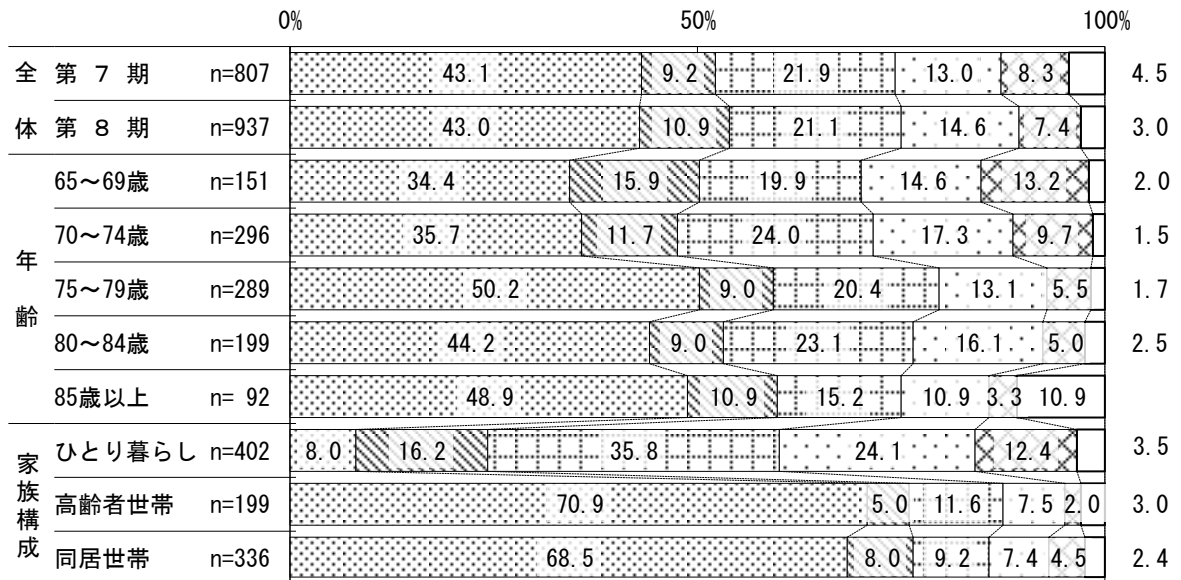
図表31 ステップアップ講座の受講希望



10 食事や口腔衛生について

■だれかと食事をとる機会を、「毎日ある」が43.0%ですが、年齢別にみると、75歳未満では35%前後となっています。家族構成別にみると、ひとり暮らしでは「月に何度かある」が35.8%と最も高くなっています。

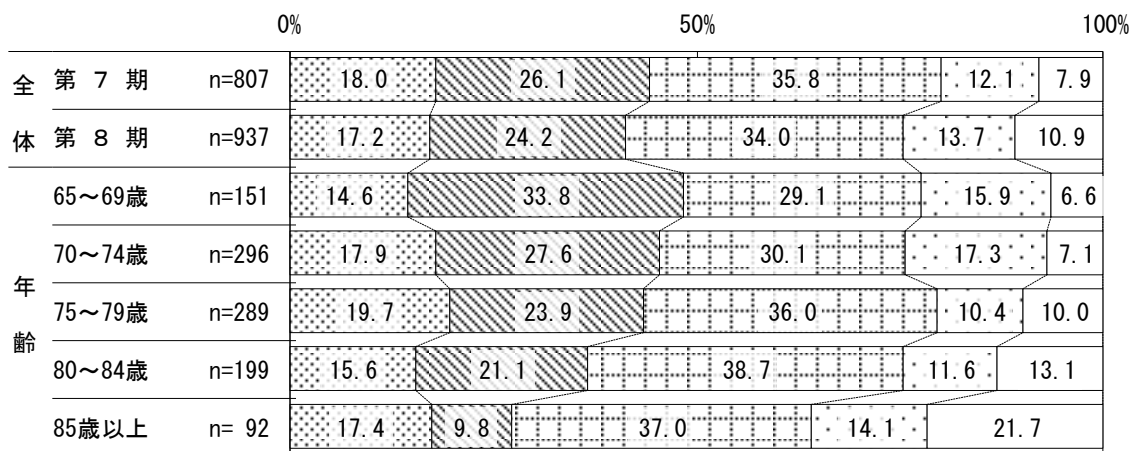
図表32 だれかと食事をとる機会があるか



■ 毎日ある ■ 週に何度かある ■ 月に何度かある ■ 年に何度かある ■ ほとんどない □ 無回答

■歯の本数と入れ歯の状況を見ると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が34.0%と最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯を利用なし」が24.2%となっています。年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい入れ歯の使用が高くなる傾向にあります。

図表33 歯の本数と入れ歯の状況

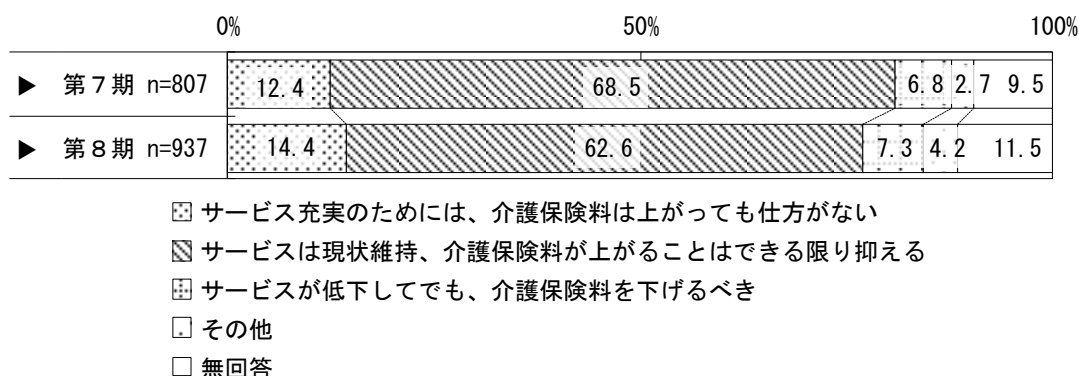


■ 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 ■ 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
 ■ 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用 ■ 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし
 □ 無回答

11 介護保険について

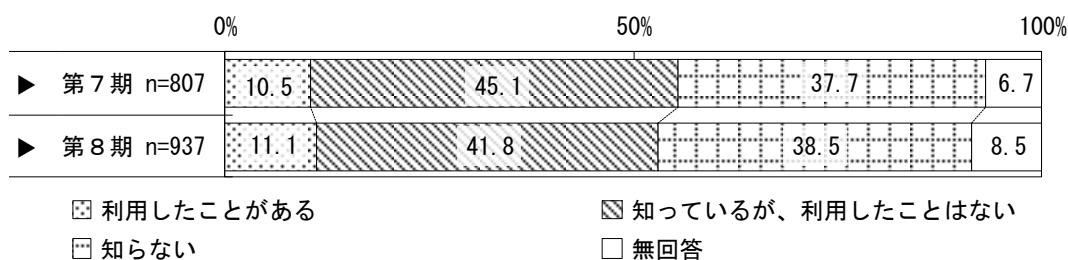
■介護保険サービスの水準と保険料の関係については、「サービスは現状維持、介護保険料が上がることはできる限り抑える」が62.6%を占めています。次いで「サービス充実のためには、介護保険料は上がっても仕方がない」が14.4%、「サービスが低下してでも、介護保険料を下げるべき」が7.3%となっています。第7期の調査結果に比べ「サービス充実のためには、介護保険料は上がっても仕方がない」が2ポイント、「サービスが低下してでも、介護保険料を下げるべき」が0.5ポイント上昇しています。

図表34 介護保険サービスの水準と保険料



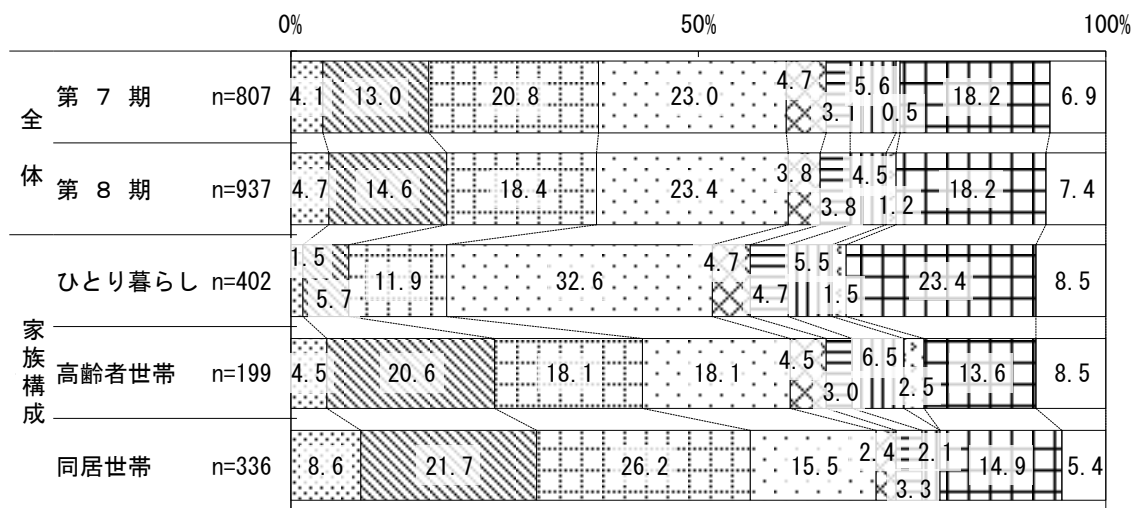
■地域包括支援センターの周知については、「利用したことがある」が11.1%、「知っているが、利用したことはない」が41.8%です。これらの合計《知っている》は52.9%で、第7期の調査結果に比べ2.7ポイント低下しています。

図表35 地域包括支援センターについて知っているか



- 自分に介護が必要になった場合の希望としては、「特別養護老人ホームや老人保健施設等の施設を利用」が23.4%と最も高くなっています。次いで「自宅で、家族の負担は極力少なく、介護保険サービス等を中心」が18.4%、「わからない」が18.2%、「自宅で、家族と共に介護保険サービス等を利用しながら介護」が14.6%などとなっています。第7期の調査結果に比べ「特別養護老人ホームや老人保健施設等の施設を利用」が0.4ポイント、「自宅で、家族と共に介護保険サービス等を利用しながら介護」が1.6ポイント上昇しています。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らしでは「特別養護老人ホームや老人保健施設等の施設を利用」、高齢者世帯では「自宅で、家族と共に介護保険サービス等を利用しながら介護」、同居世帯では「自宅で、家族の負担は極力少なく、介護保険サービス等を中心」が最も高くなっています。また、ひとり暮らしでは「わからない」が20%を超える高い率となっています。

図表36 介護が必要となった場合の希望

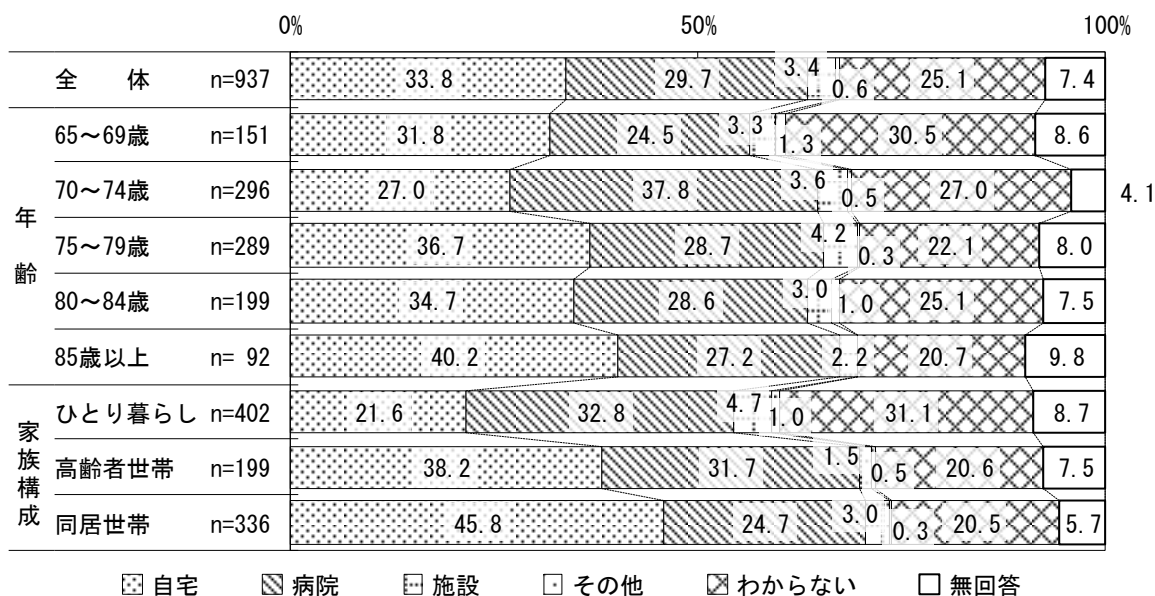


- ☒ 自宅で、家族だけで介護
- ☒ 自宅で、家族と共に介護保険サービス等を利用しながら介護
- ☒ 自宅で、家族の負担は極力少なく、介護保険サービス等を中心
- ☐ 特別養護老人ホームや老人保健施設等の施設を利用
- ☒ グループホームを利用
- ☐ 有料老人ホーム等を利用
- ☐ 病院に入院
- ☒ その他
- ☐ わからない
- ☐ 無回答

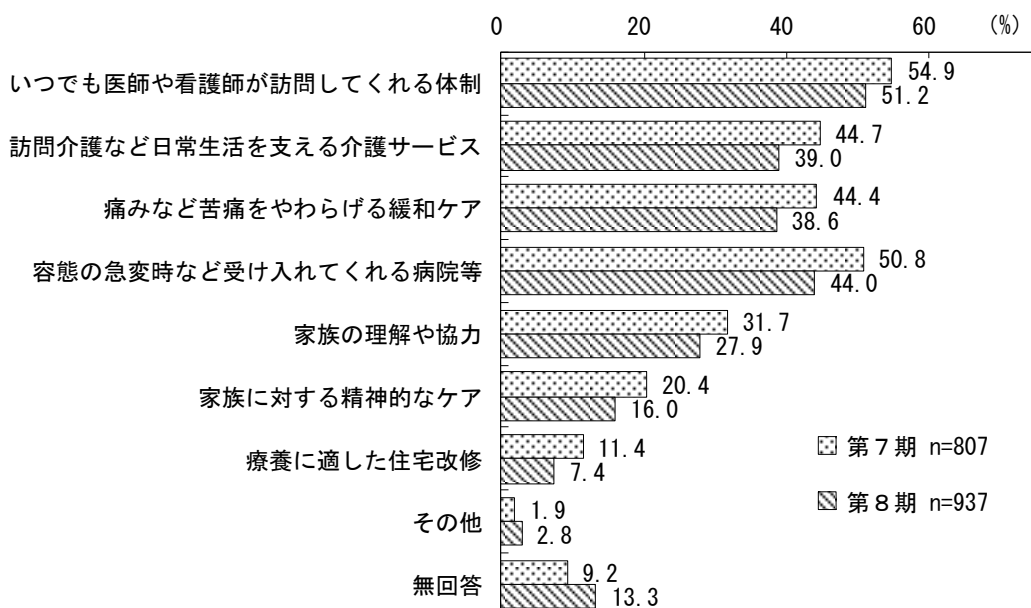
12 在宅医療等について

- 「仮に治る見込みのない病気等で死期が近い場合、どこで最期を迎えたいと思いますか」という設問については、「自宅」が33.8%と最も高く、次いで「病院」が29.7%、「わからない」が25.1%です。年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「自宅」が高くなる傾向にあります。家族構成別にみると、ひとり暮らしでは「わからない」が30%以上を占めています（図表37）。
- 安心して自宅で最期を迎えられるための条件としては、「いつでも医師や看護師が訪問してくれる体制」が51.2%と最も高く、次いで「容態の急変時など受け入れてくれる病院等」が44.0%となっています（図表38）。

図表37 どこで最期を迎えたいと思うか

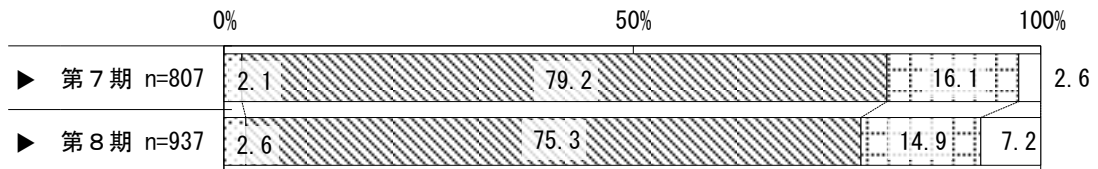


図表38 安心して自宅で最期を迎えられるための条件



■ 「治る見込みがない病気にかかった場合、治療によって生活の質が下がるとしても、延命治療を望みますか」という設問については、「延命治療を望まない」が75.3%を占めており、「延命治療を望む」はわずか2.6%です。

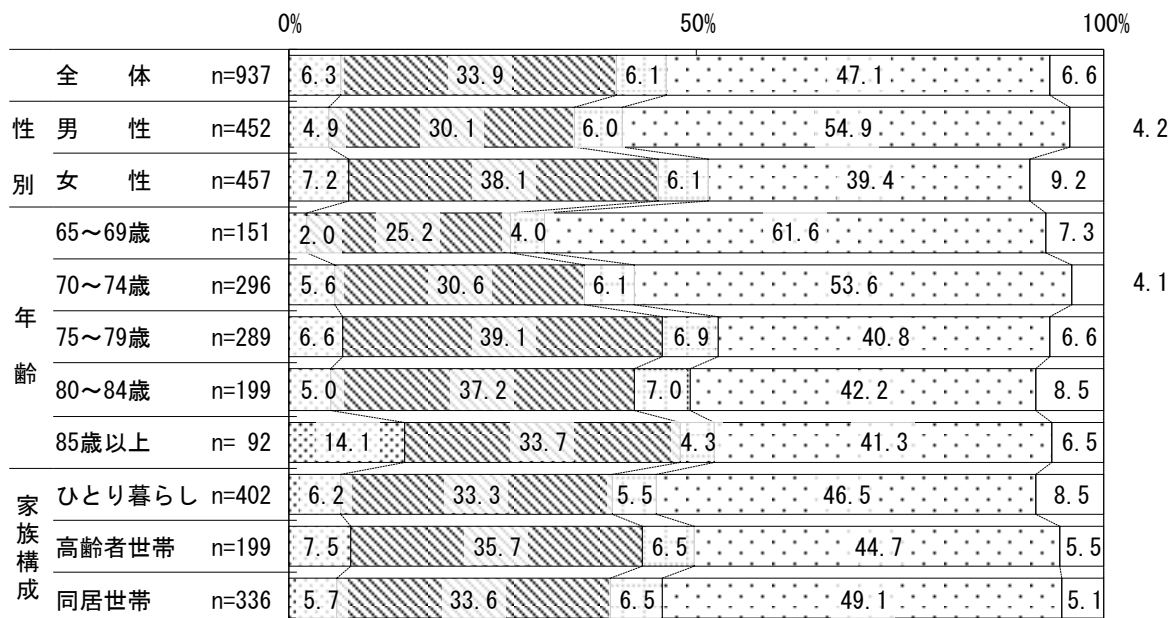
図表39 延命治療を望むか



☒ 延命治療を望む ☑ 延命治療を望まない ☒ わからない □ 無回答

■ 「ご自身にもしものことがあった場合のことを考えて、日頃から家族（同居していない子どもや親族等を含む）と話し合ったり、書面に残していますか。」という設問については、「何もしていない」が47.1%を占めており、次いで「話し合っているが、書面は残していない」が33.9%などとなっています。「話し合っており、書面も残している」「話し合っているが、書面は残していない」「話し合っていないが、書面は残している」の合計は46.3%であり、年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあります。

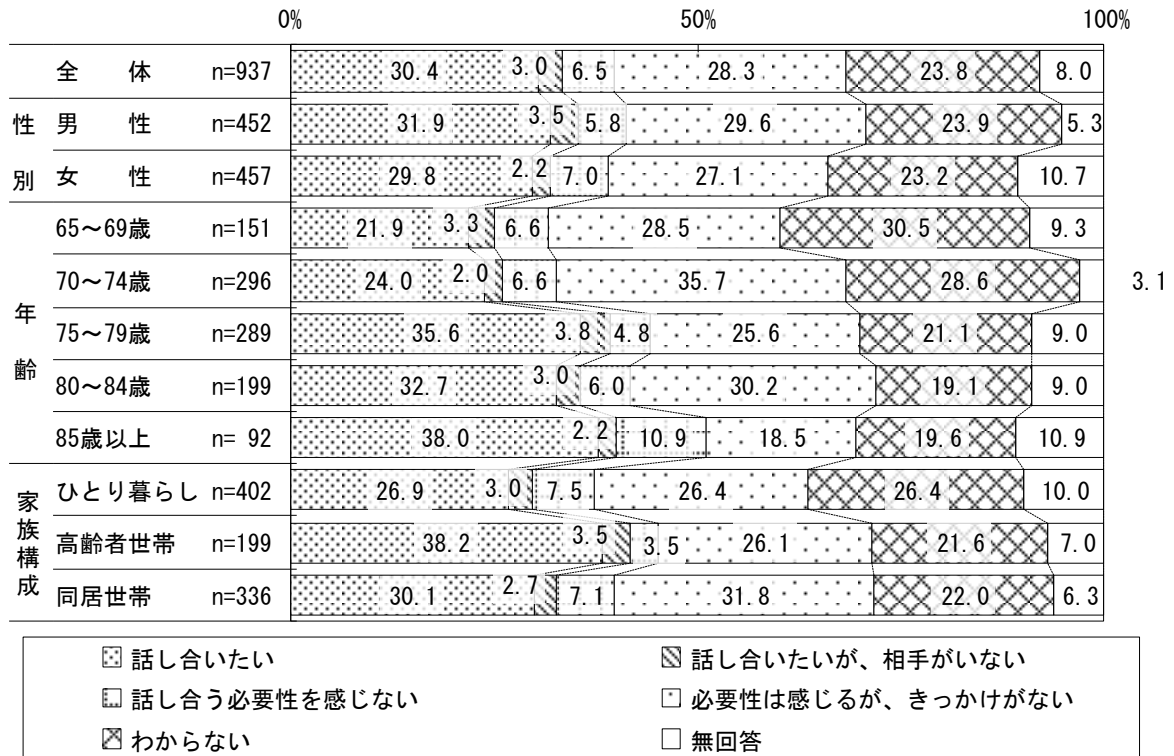
図表40 もしものことを考えて、家族と話し合ったり、書面に残しているか



☒ 話し合っており、書面も残している ☑ 話し合っているが、書面は残していない
 □ 話し合っていないが、書面は残している □ 何もしていない
 □ 無回答

■ 「ご自身にもしものことがあった場合のことを考えて、家族や信頼できる医療・介護の人と話し合いたいと思いますか。」という設問については、「話し合いたい」が30.4%と最も高く、次いで「必要性は感じるが、きっかけがない」が28.3%などとなっています。「話し合う必要性を感じない」は6.5%です。年齢別にみると、「話し合いたい」は75歳を過ぎると大幅に上昇し35%前後となります。

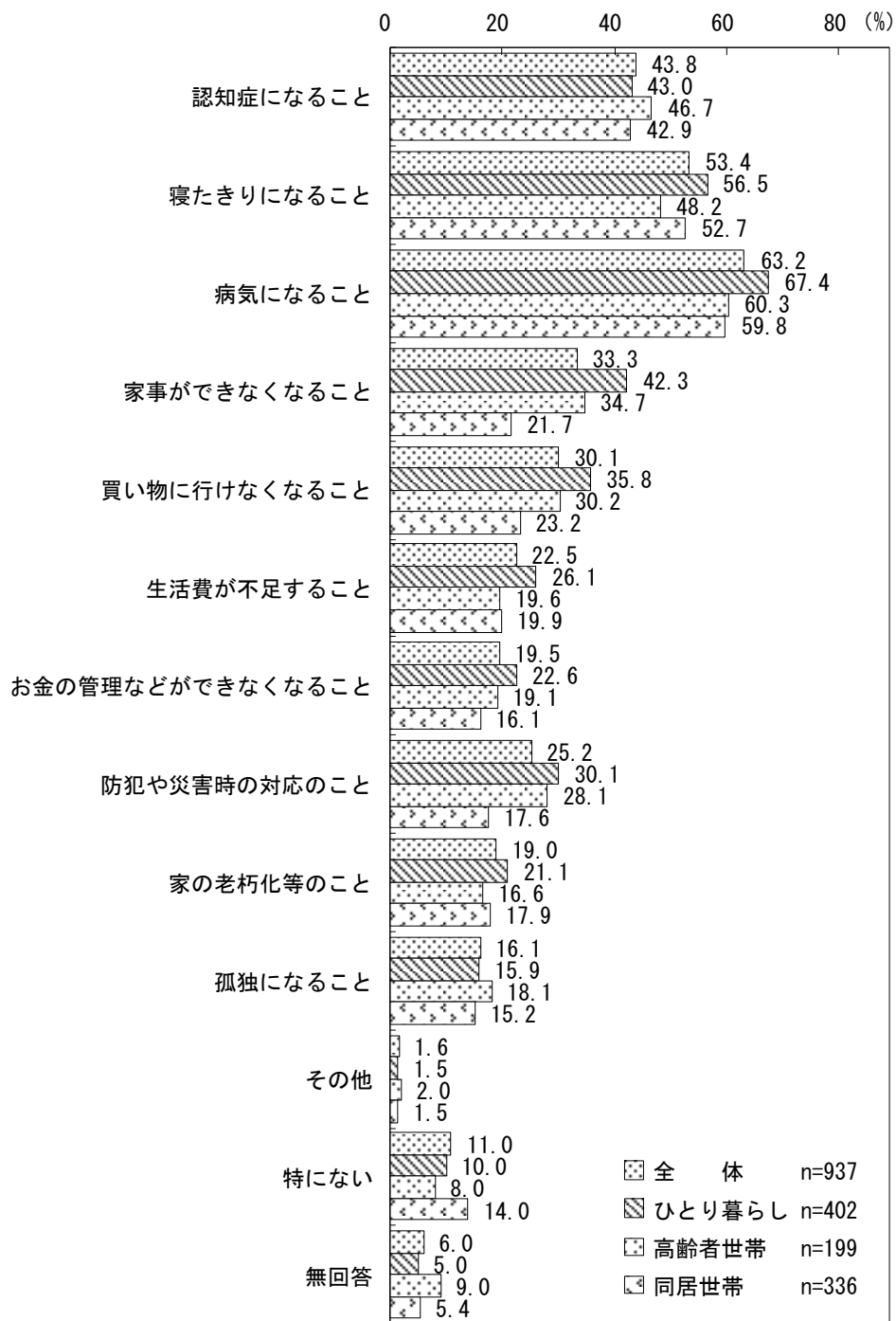
図表41 もしものことを考えて、家族や医療・介護の人と話し合いたいか



13 日頃の不安について

■ふだんの生活で不安に思っていることとしては、「病気になること」が63.2%と最も高く、次いで「寝たきりになること」が53.4%、「認知症になること」が43.8%などとなっています。家族構成別にみると、ひとり暮らしの人が多くの不安を抱えて暮らしていることがわかります。

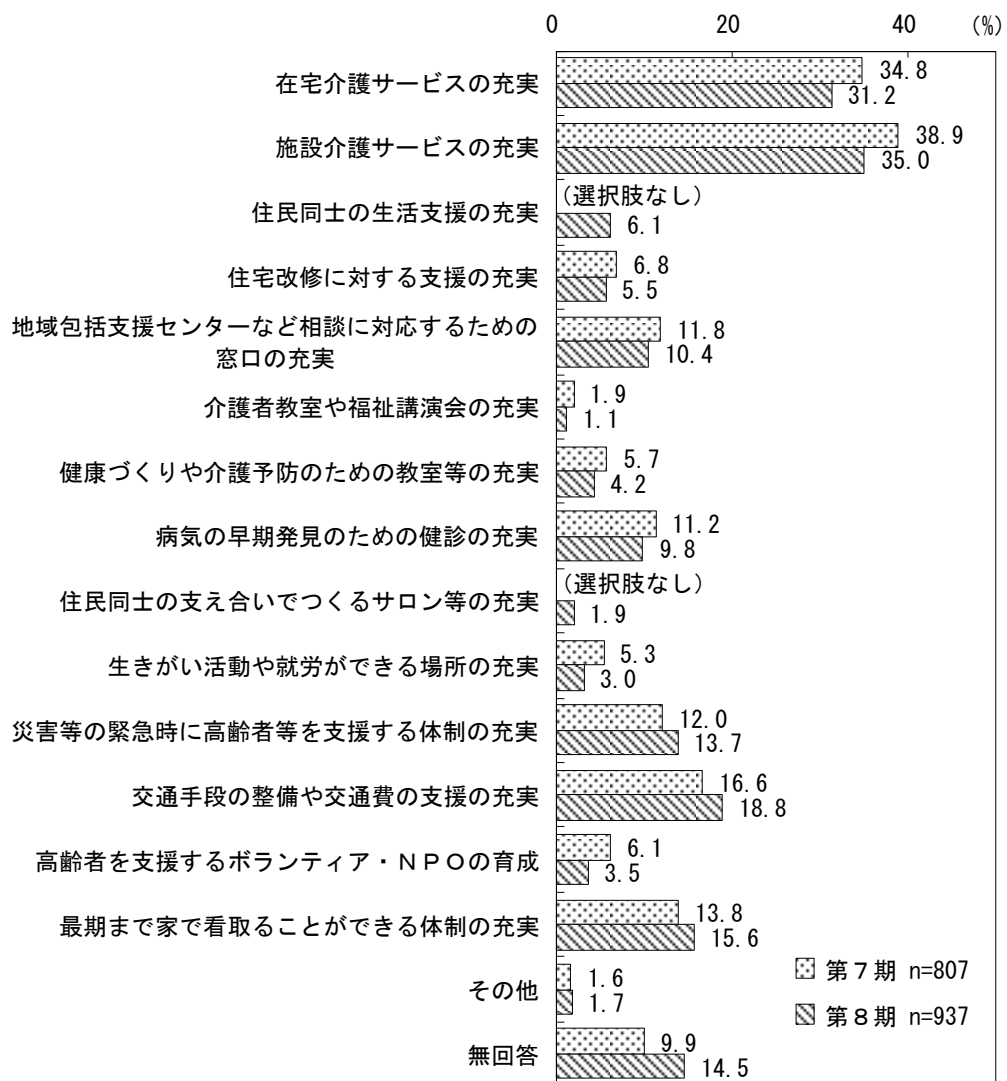
図表42 日頃の生活で不安に思っていること



14 大口町の高齢者施策に望むこと

■大口町の高齢者施策に望むこととしては、「施設介護サービスの充実」が35.0%と最も高く、次いで「在宅介護サービスの充実」が31.2%と、この2項目が突出して高くなっています。第7期の調査結果に比べ、「交通手段の整備や交通費の支援の充実」「最期まで家で看取ることが出来る体制の充実」「災害等の緊急時に高齢者等を支援する体制の充実」などが上昇しています。

図表43 大口町の高齢者施策に望むこと

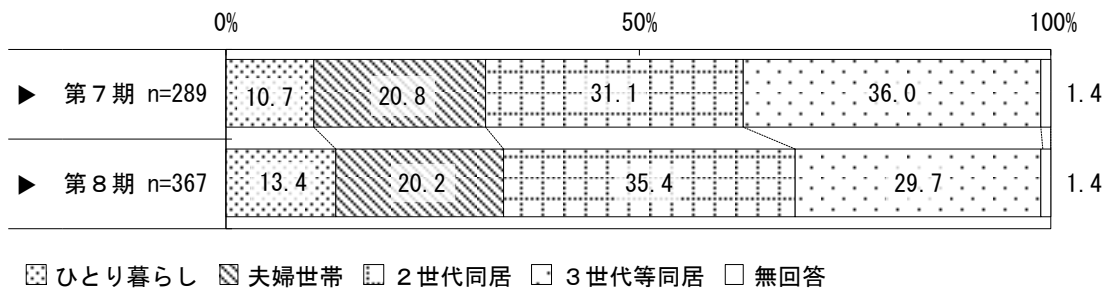


第2 在宅認定者調査

1 家族構成

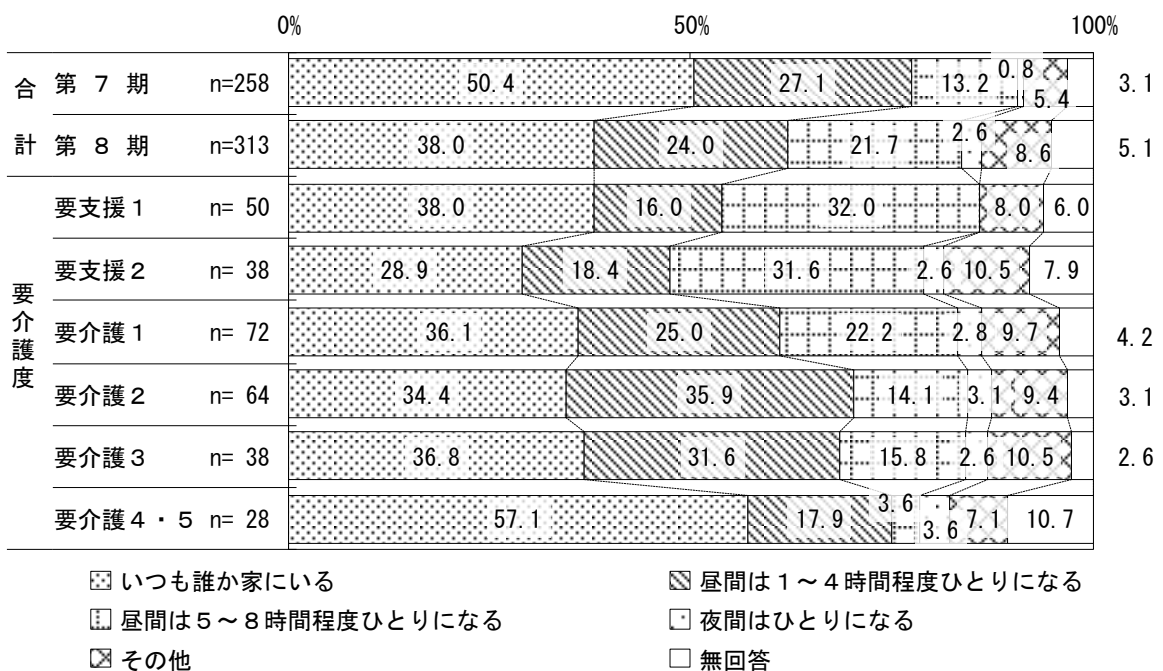
■ 家族構成は、家族などと同居が想定される「2世代同居」が35.4%と最も高く、次いで「3世代等同居」が29.7%、「夫婦世帯」が20.2%、「ひとり暮らし」が13.4%となっています。第7期の調査結果に比べ「2世代同居」及び「ひとり暮らし」が上昇しています。

図表44 家族構成



■ 同居者の状況については、「いつも誰かが家にいる」が38.0%と最も高くなっていますが、「昼間は1～4時間程度1人になる」が24.0%、「昼間は5～8時間程度ひとりになる」が21.7%あります。第7期の調査結果に比べ「いつも誰かが家にいる」が10ポイント以上低下しています。

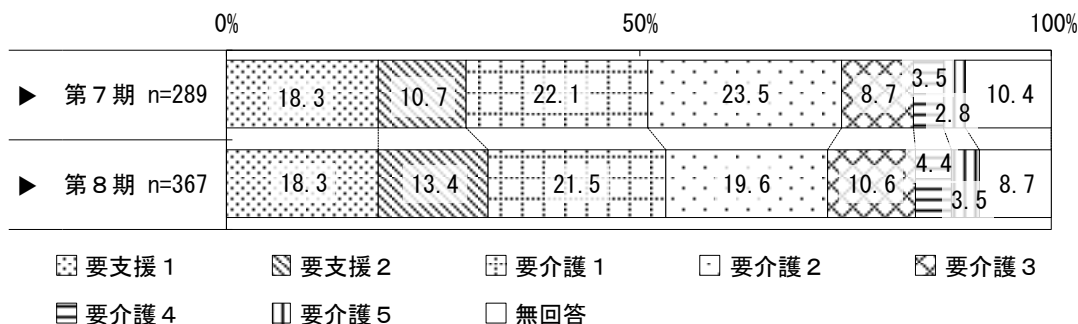
図表45 日中、6時間程度一人になることがあるか



2 要介護者の状況

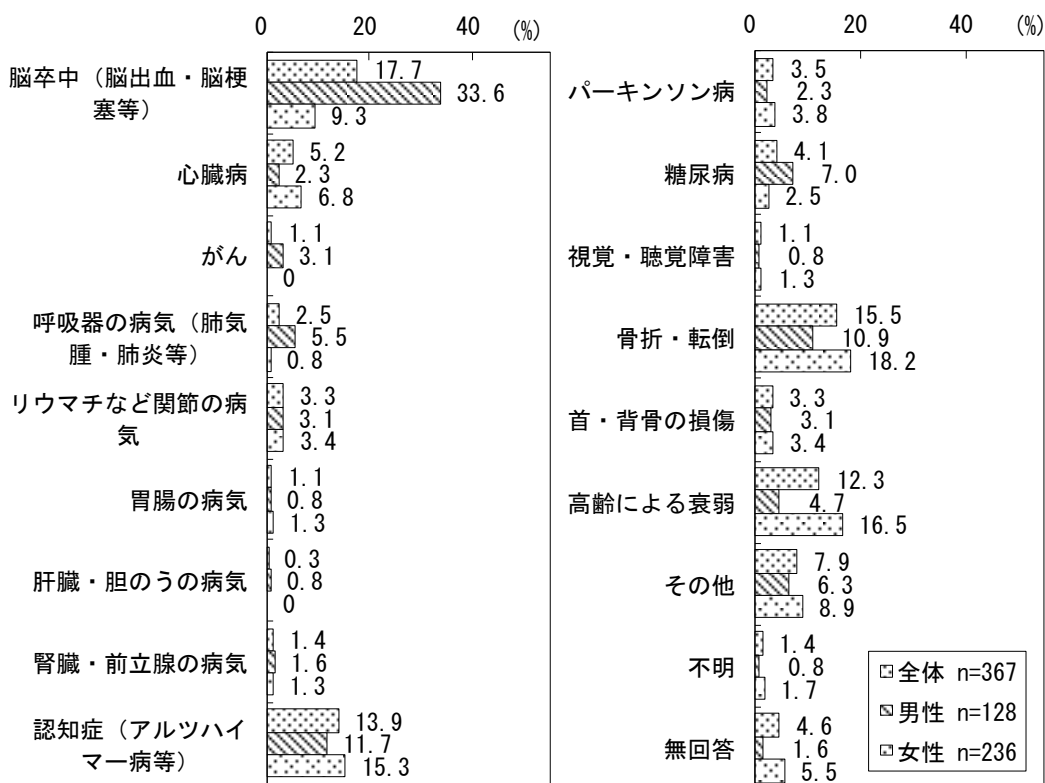
■要介護度は、「要介護1」が21.5%と最も高く、次いで「要介護2」が19.6%、「要支援1」が18.3%、「要支援2」が13.4%となっており、最重度の「要介護5」は3.5%です。第7期の調査結果に比べ「要介護1」及び「要介護2」が低下し「要介護3」～「要介護5」が上昇しています。

図表46 要介護度



■介護が必要となった主な原因としては、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が17.7%と最も高く、次いで「骨折・転倒」が15.5%、「認知症（アルツハイマー病等）」が13.9%、「高齢による衰弱」が12.4%などとなっています。性別により大きな差があるのは、男性が高い「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」「呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）」「糖尿病」、女性が高い「骨折・転倒」「認知症（アルツハイマー病等）」「高齢による衰弱」などです。

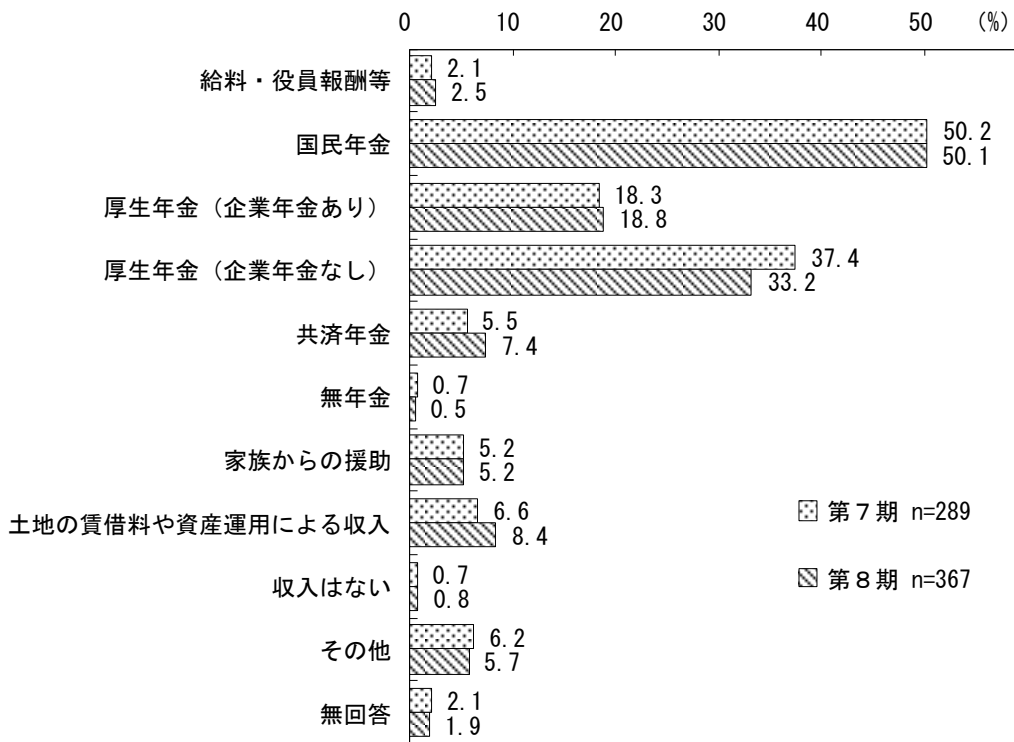
図表47 介護が必要となった主な原因（複数回答）



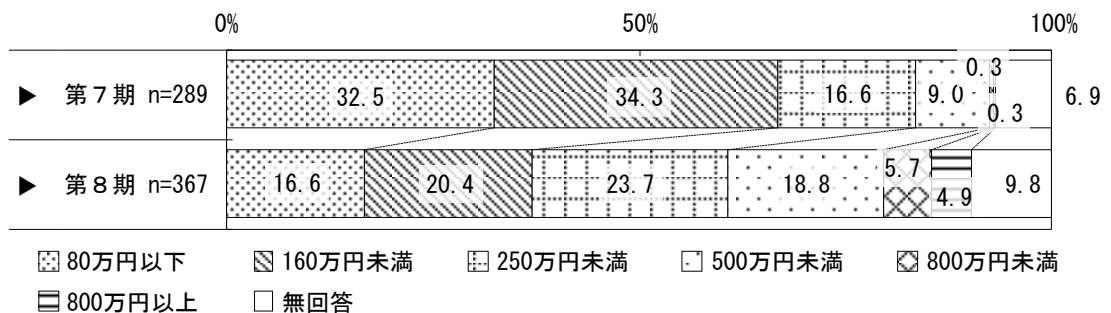
3 暮らしの状況について

- どのような収入があるかお聞きしたところ、「国民年金」が50.1%と最も高く、次いで「厚生年金（企業年金なし）」が33.2%、「厚生年金（企業年金あり）」が18.8%などとなっています（図表48）。
- 1年間の世帯収入は、「250万円未満」が23.7%と最も高く、次いで「160万円未満」が20.4%、「500万円未満」が18.8%などとなっています（図表49）。
- 要支援の人の現在の暮らしの状況については、「ふつう」が61.6%と最も高く、次いで、「やや苦しい」が19.6%、「ややゆとりがある」が8.0%です。第7期の調査結果に比べ「ふつう」が上昇し「大変苦しい」及び「やや苦しい」が低下しています（図表50）。

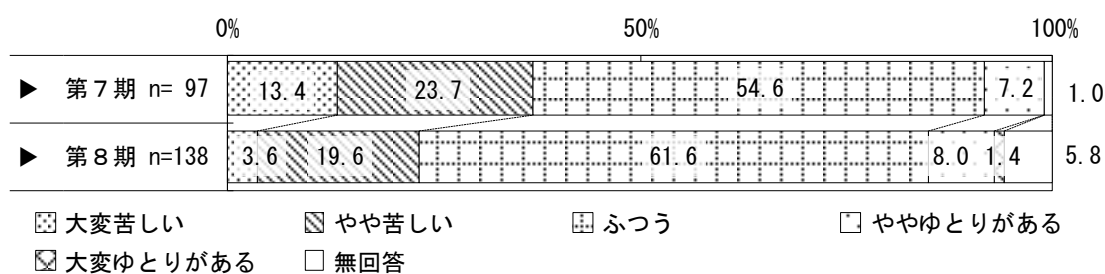
図表48 収入について（複数回答）



図表49 1年間の世帯収入



図表50 暮らしの状況（要支援のみ）

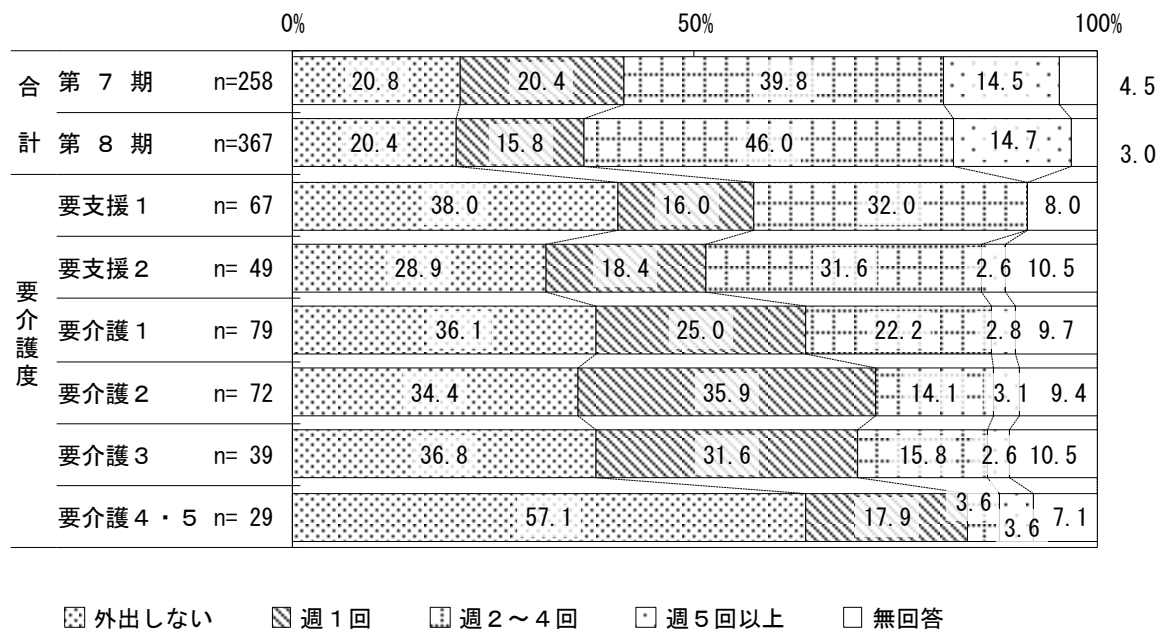


4 外出について

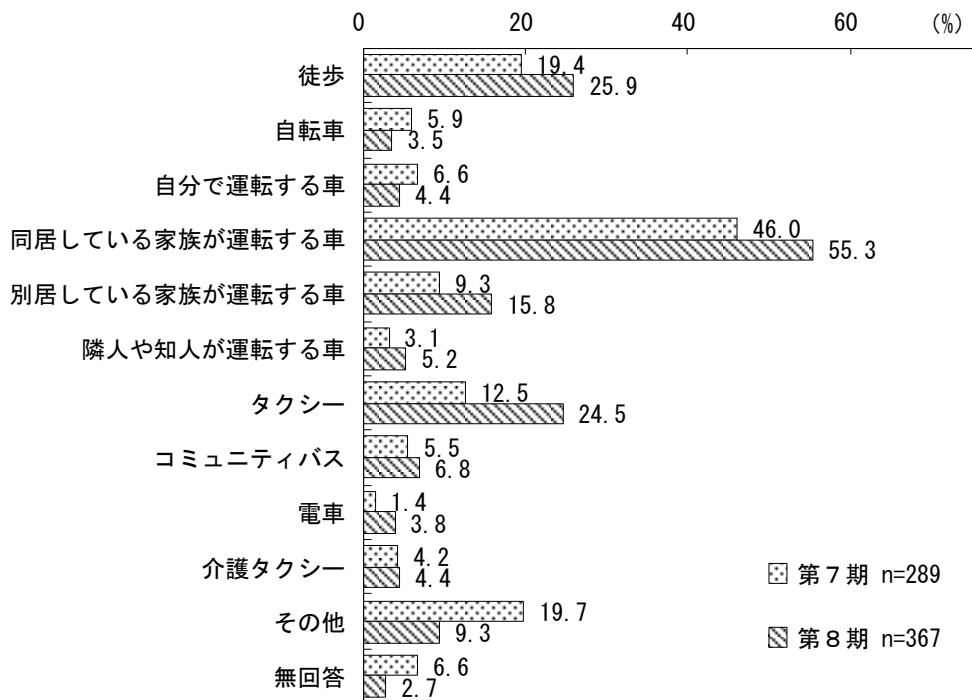
■「週1回以上は外出していますか」という設問では、「週2～4回」が46.0%と最も高く、次いで「外出しない」が20.4%、「週1回」が15.8%となっています。要介護度別にみると、重度化にしたがい「外出しない」が高くなる傾向にあり、要介護4・5では57.1%となります（図表51）。

■外出する際の移動手段としては、「同居している家族が運転する車」が55.3%と突出して高く、次いで「徒歩」が25.9%、「タクシー」が24.5%などとなっています（図表52）。

図表51 外出頻度

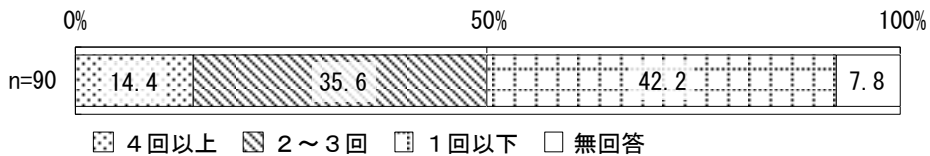


図表52 外出する際の移動手段（複数回答）

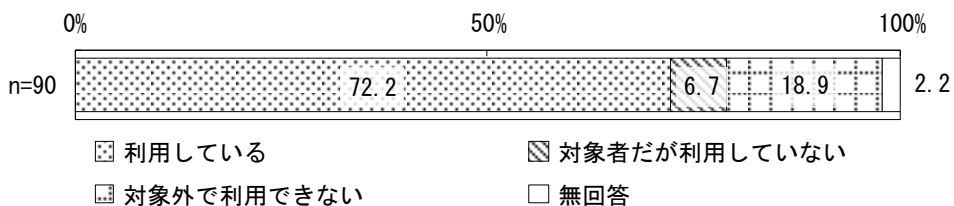


- 外出の際、タクシーを利用している人の1か月あたりの利用頻度をみると、「1回以下」が42.2%を占めています（図表53）。
- 外出の際、タクシーを利用している人で外出支援サービス（タクシー料金の助成）を「利用している」人は72.2%です（図表54）。
- 外出支援サービスを利用してタクシーを利用している人に、外出支援サービスでコミュニティバスが利用できるとしたら、利用するかお聞きしたところ、「利用する」が35.4%です（図表55）。

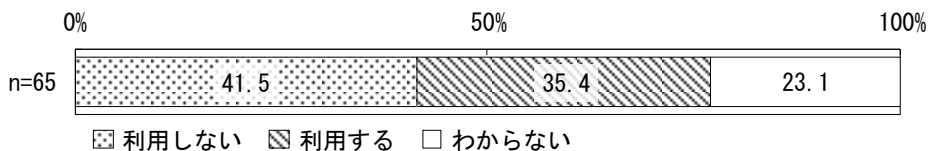
図表53 タクシーの利用頻度



図表54 外出支援サービス（タクシー料金の助成）の利用状況



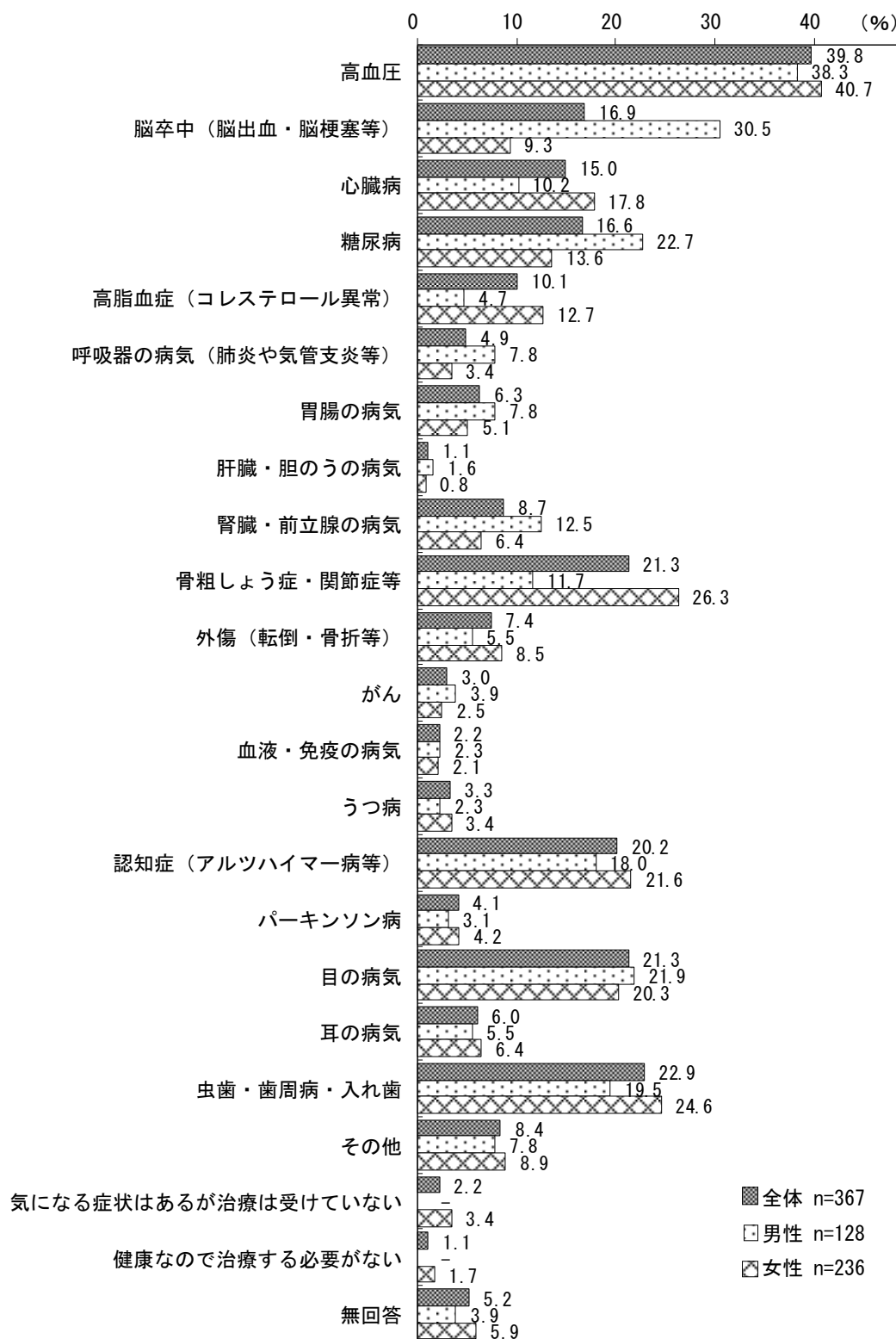
図表55 外出支援サービスでコミュニティバスが利用できるとしたら利用するか



5 医療について

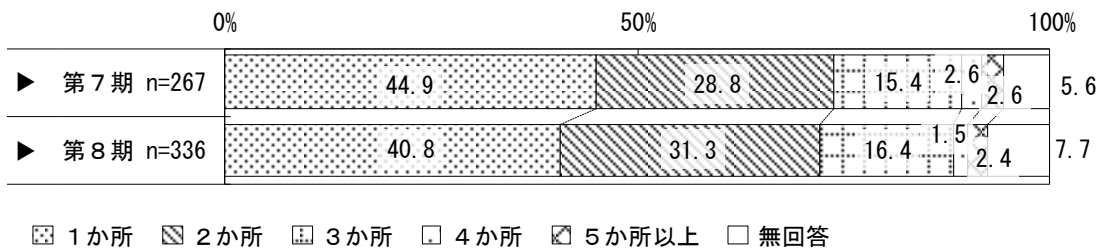
■現在、治療中または後遺症ある病気は、「高血圧」が39.8%と最も高く、次いで「虫歯・歯周病・入れ歯」が22.9%などとなっています。性別により5ポイント以上の差があるのは、男性が高い「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」「糖尿病」「腎臓・前立腺の病気」、女性が高い「骨粗しょう症・関節症等」「虫歯・歯周病・入れ歯」「心臓病」「高脂血症（コレステロール異常）」です。

図表56 現在、治療中または後遺症ある病気（複数回答）

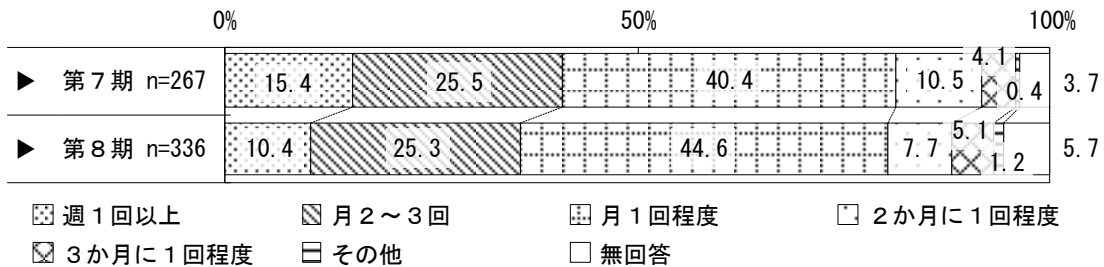


- 現在、治療中の336人に、何か所の医療機関に通院しているかお聞きしたところ、「1か所」が40.8%、「2か所」が31.3%、「3か所」が16.4%です（図表57）。
- 通院（往診を含む）回数は、「月1回程度」が44.6%を占めており、次いで「月2～3回」が25.5%、「週1回以上」が10.4%です。第7期の調査結果に比べ「週1回以上」が5ポイント低下しています（図表58）。
- 通院方法は、「同居の家族に付き添われて通院している」が61.6%を占めており、次いで「自分で通院している」が14.9%、「同居以外の家族・親族に付き添われて通院している」が11.6%です（図表59）。

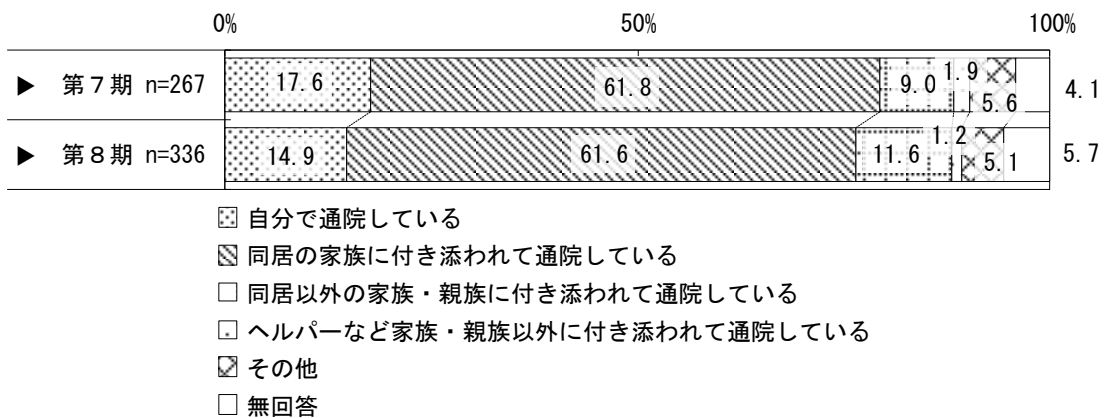
図表57 通院か所数



図表58 通院回数



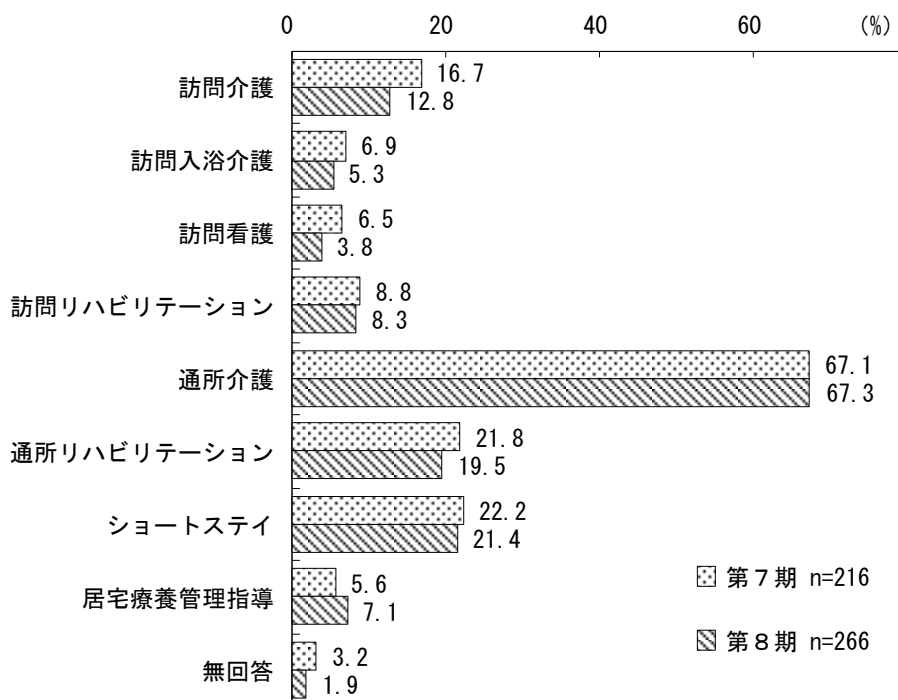
図表59 通院方法



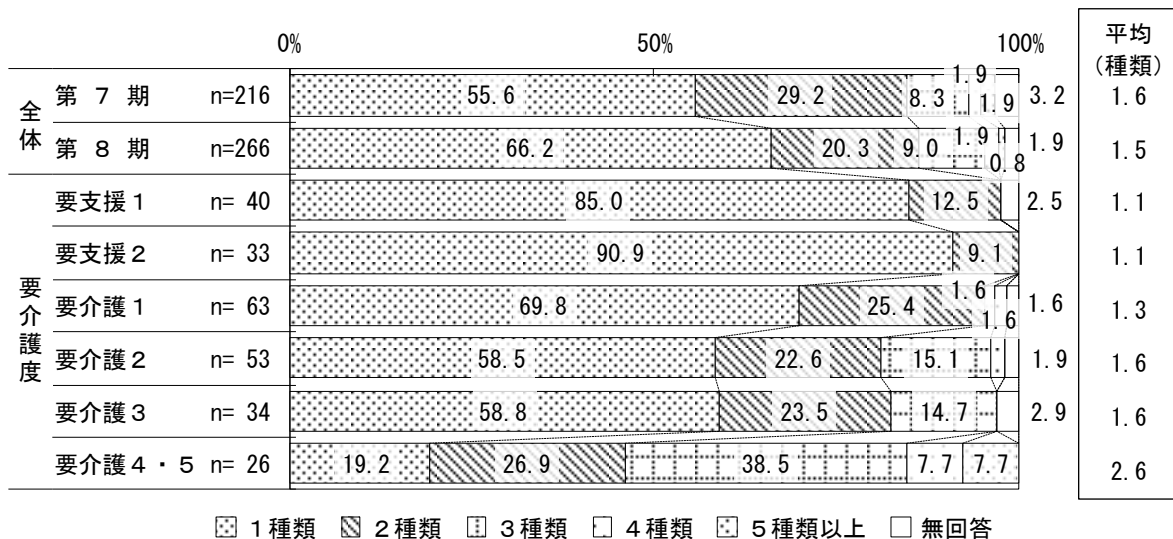
6 介護保険について

- 令和元年11月の1か月間の介護保険サービス（居宅）の種類別利用状況については、「通所介護」が67.3%と圧倒的に高く、次いで「ショートステイ」が21.4%、「通所リハビリテーション」が19.5%、「訪問介護」が12.8%などとなっています（図表60）。
- 利用しているサービスの数は「1種類」が66.2%と最も高く、次いで「2種類」が20.3%などとなっています。平均は1.5種類であり、第7期の調査結果に比べ0.1種類減少しています。重度化にしたがい多くなっており、要介護4・5は2.6種類です。（図表61）。

図表60 介護保険サービス（居宅）の種類別利用状況（複数回答）



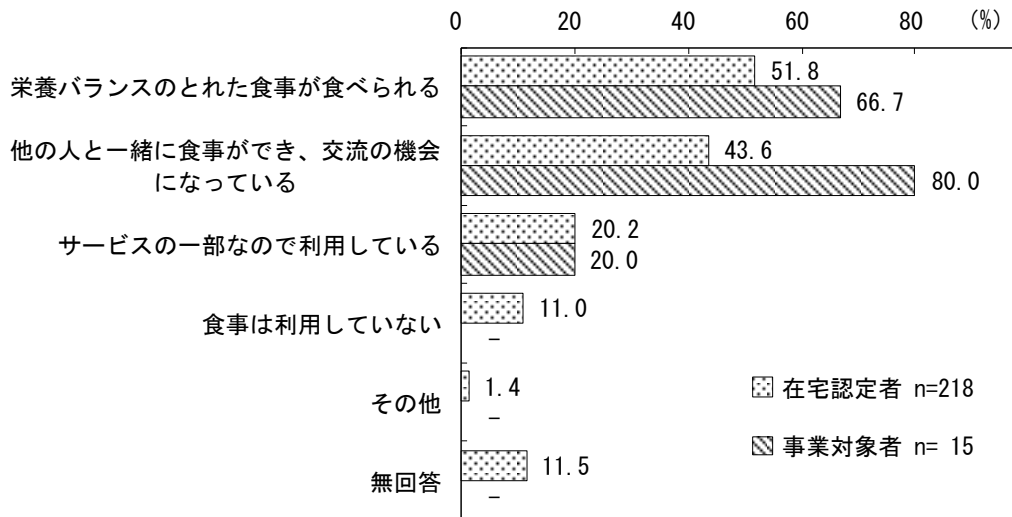
図表61 利用しているサービスの数



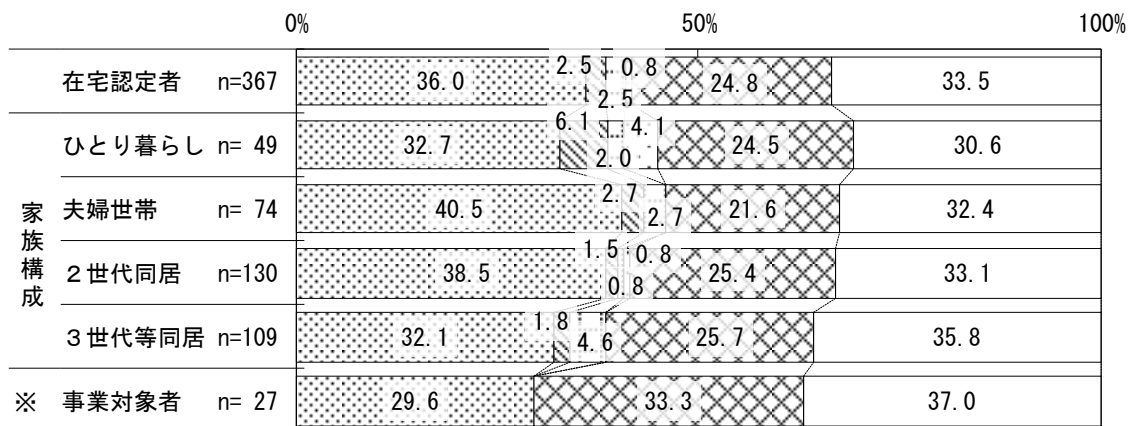
■通所サービスの食事について通所サービス利用者にお聞きしたところ、「栄養バランスのとれた食事が食べられる」が51.8%と最も高く、次いで「他の人と一緒に食事ができ、交流の機会になっている」が43.6%となっています。なお、介護予防・日常生活支援総合事業の対象者（以下「事業対象者」という。）についてみると「他の人と一緒に食事ができ、交流の機会になっている」が80.0%、「栄養バランスのとれた食事が食べられる」が66.7%となっています。（図表62）。

■大口町独自の助成制度である低所得者を対象に通所介護と通所リハビリテーションの利用時における食費の助成についてお聞きしたところ、「今のままでよい」が36.0%と最も高く、次いで「わからない」が24.8%となっています。なお、事業対象者についてみると「わからない」が33.3%、「今のままでよい」が29.6%となっています（図表63）。

図表62 通所サービスの食事について（複数回答）



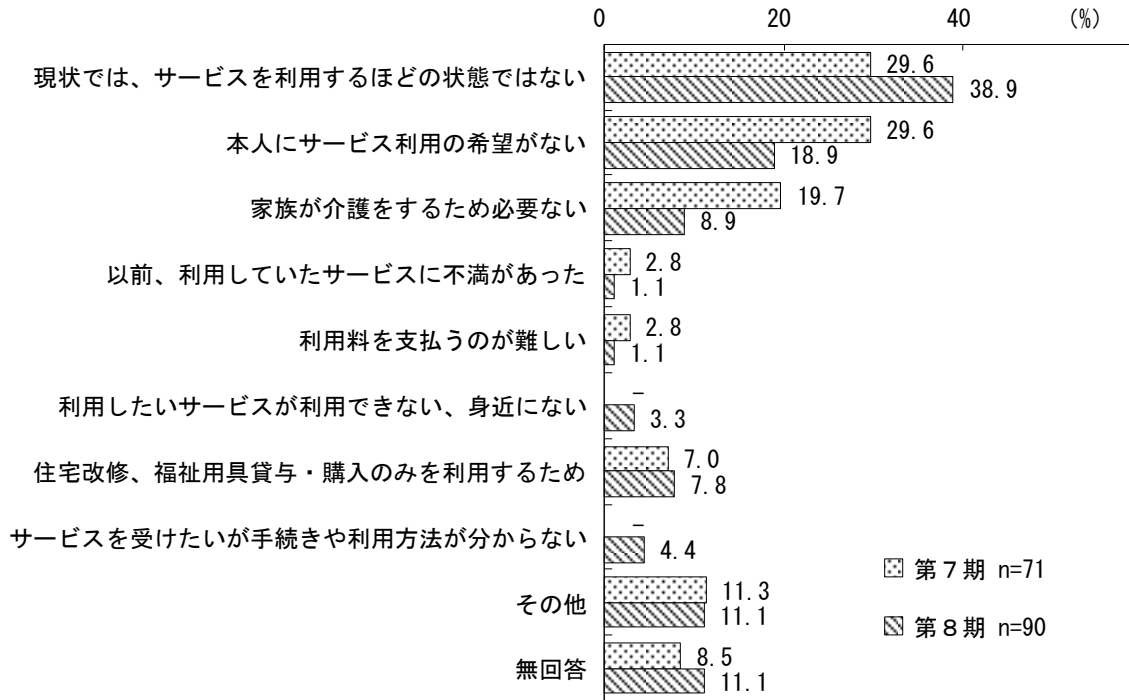
図表63 通所サービスの食費助成について



- 今のままでよい
- 保険料の負担が増えても、助成の内容を充実させる
- 食費の支給は必要ない
- その他
- わからない
- 無回答

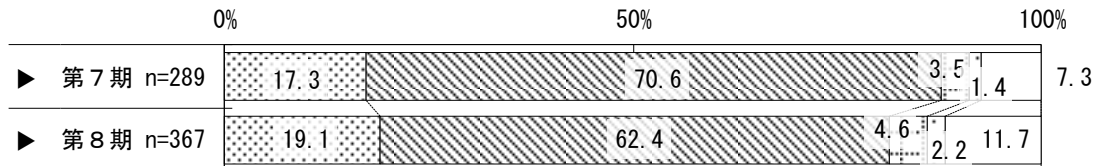
■介護保険サービスを1つも利用していない90人に、利用していない理由をお聞きしたところ、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が38.9%と最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が18.9%などとなっています。

図表64 介護保険サービスを利用しない理由（複数回答）



■介護保険サービスの水準と保険料の関係については、「サービスは現状維持、介護保険料が上がることはできる限り抑える」が62.4%を占めています。次いで「サービス充実のためには、介護保険料は上がっても仕方がない」が19.1%、「サービスが低下してでも、介護保険料を下げるべき」が4.6%となっています。第7期の調査結果に比べ「サービス充実のためには、介護保険料は上がっても仕方がない」が1.8ポイント上昇しています。

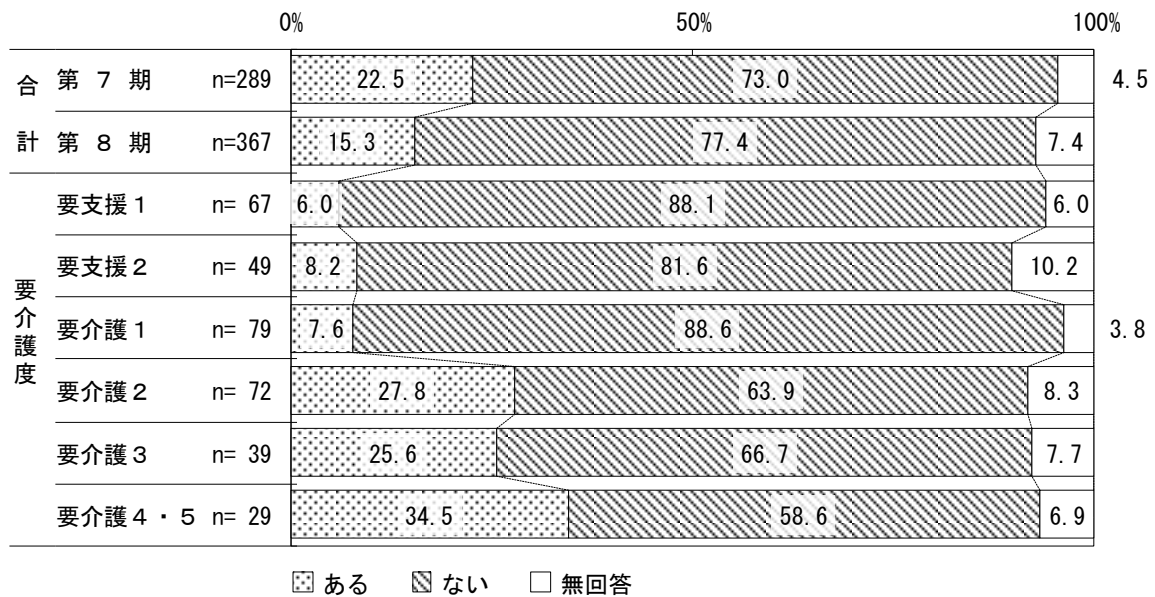
図表65 介護保険サービスの水準と保険料



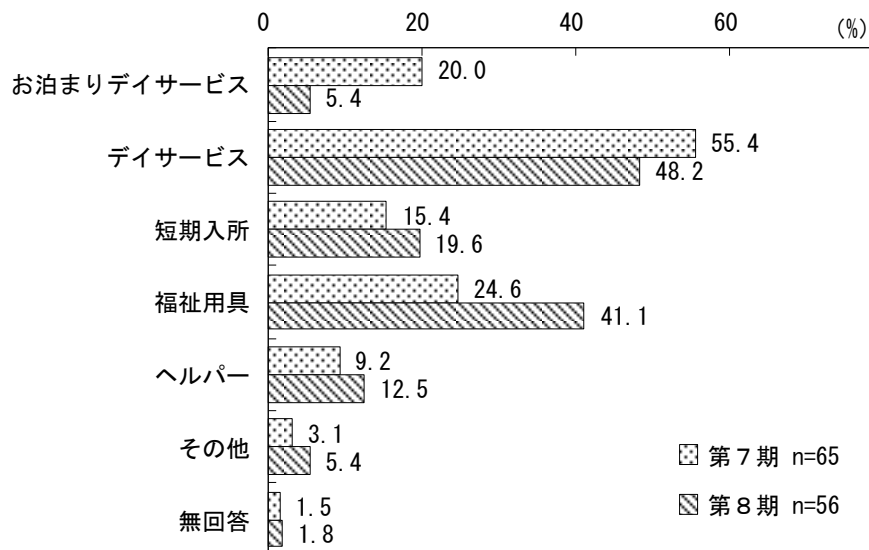
- サービス充実のためには、介護保険料は上がっても仕方がない
- サービスは現状維持、介護保険料が上がることはできる限り抑える
- サービスが低下してでも、介護保険料を下げるべき
- その他
- 無回答

- 「介護保険の給付の限度を超えてしまったため、サービスを自費で利用したことがありますか」という設問については、「ある」が15.3%で、第7期の調査結果に比べ7.2ポイント低下しています。要介護度別にみると、要介護2～4で「ある」が25%を超えています（図表66）。
- 自費で利用したサービスの種類は「デイサービス」が48.2%と最も高く、次いで「福祉用具」が41.1%などとなっています。第7期の調査結果に比べ「お泊まりデイサービス」が大幅に低下した一方、「福祉用具」が上昇しています（図表67）。

図表66 サービスの自費利用

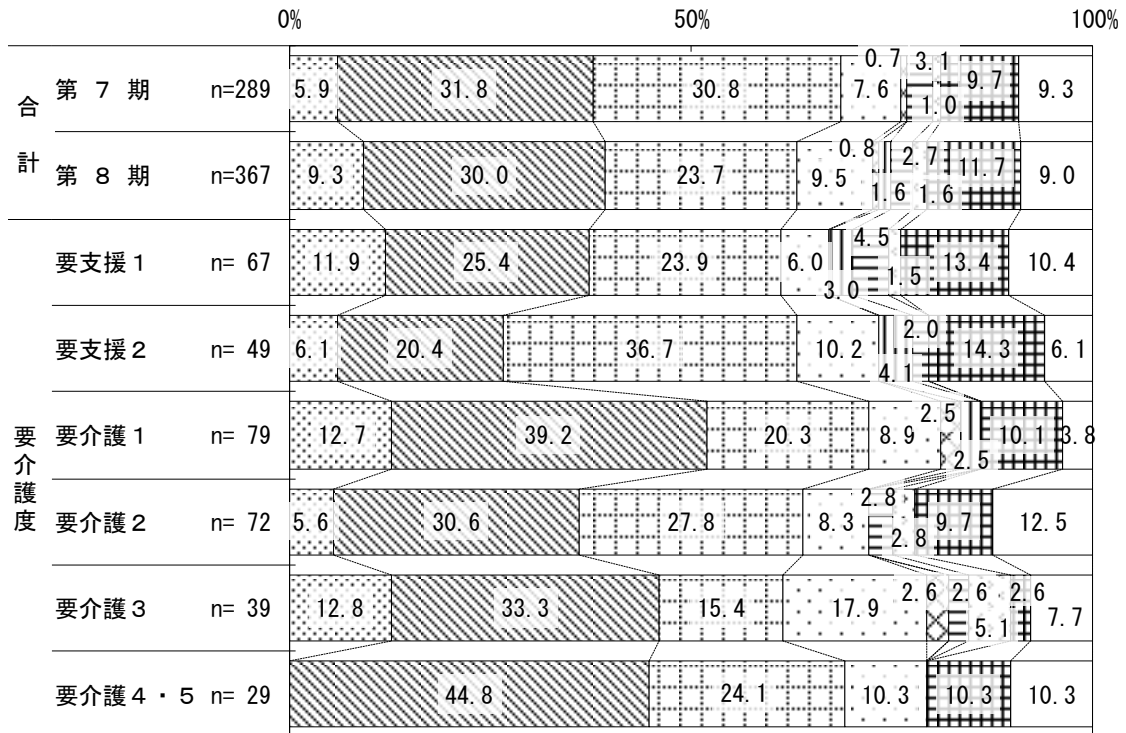


図表67 自費で利用したサービスの種類



■今後の介護の希望としては、「自宅で、家族と共に介護保険サービス等を利用しながら介護」が30.0%と最も高く、次いで「自宅で、家族の負担は極力少なく、介護保険サービス等を中心」が23.7%となっています。第7期の調査結果に比べ「自宅で、家族だけで介護」や「特別養護老人ホームや老人保健施設等の施設を利用」などが上昇しています。

図表68 今後の介護の希望

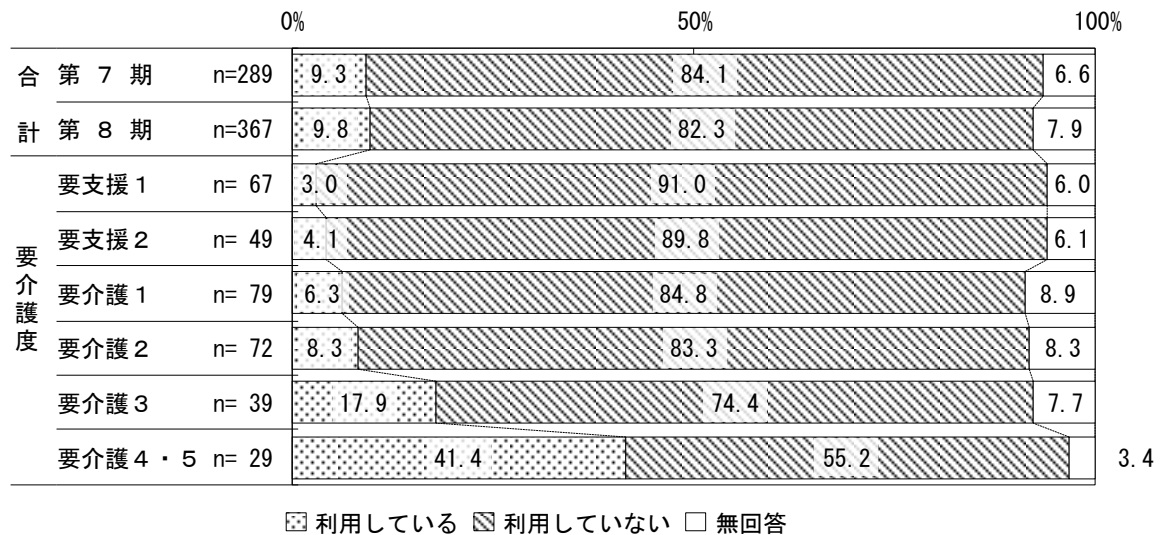


- ☒ 自宅で、家族だけで介護
- ▨ 自宅で、家族と共に介護保険サービス等を利用しながら介護
- ▤ 自宅で、家族の負担は極力少なく、介護保険サービス等を中心
- 特別養護老人ホームや老人保健施設等の施設を利用
- ▩ グループホームを利用
- ▧ 有料老人ホーム等を利用
- ▭ 病院に入院
- ☒ その他
- ▩ わからない
- 無回答

7 在宅医療などについて

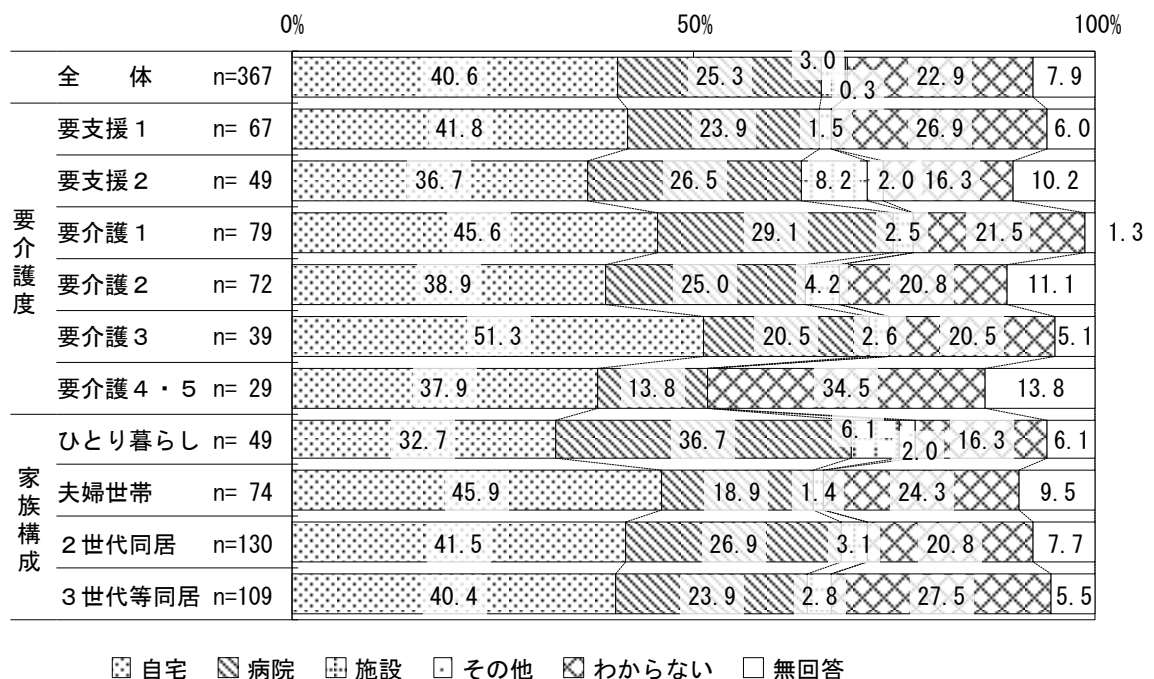
■現在の訪問診療の利用状況は、「利用している」が9.8%です。要介護度別にみると、重度化にしたがい利用率が高くなる傾向にあり、要介護4・5では41.4%となります。

図表69 訪問診療の利用状況



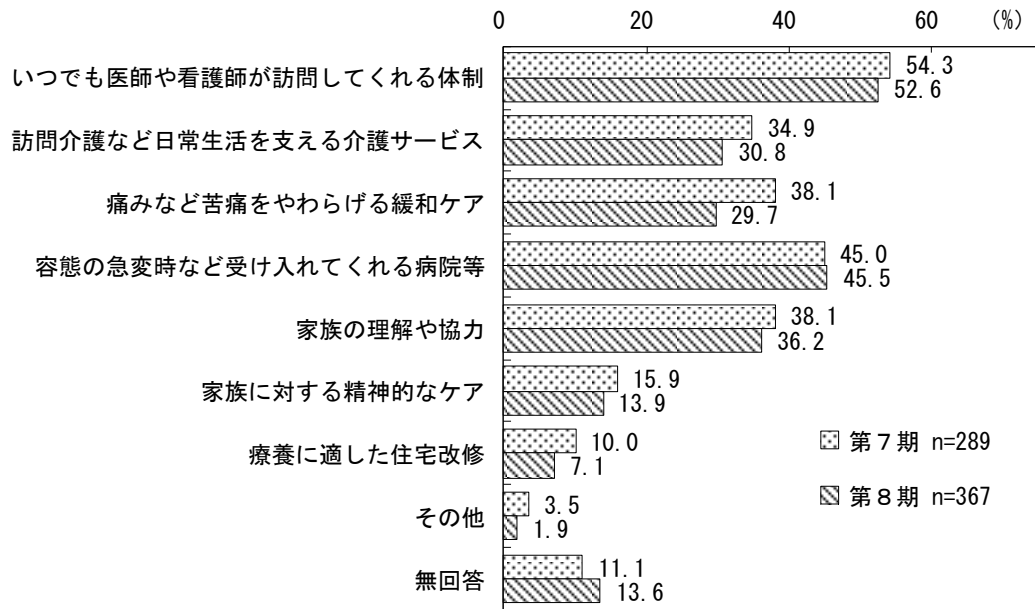
■「仮に治る見込みのない病気等で死期が近い場合、どこで最期を迎えたいと思いますか」という設問については、「自宅」が40.6%と最も高く、次いで「病院」が25.3%、「わからない」が22.9%です。要介護度別にみると、要介護3の「自宅」が50%を超える高い率となっています。家族構成別にみると、ひとり暮らしでは「病院」が36.7%と最も高くなっています。

図表70 どこで最期を迎えたいと思うか



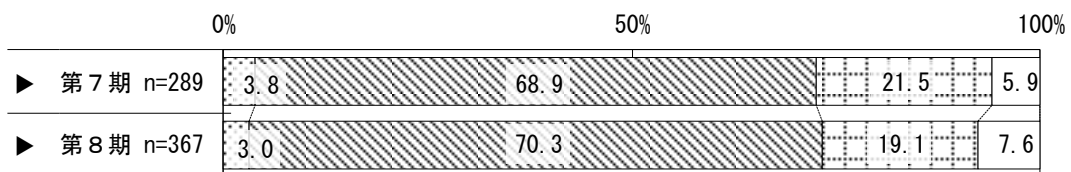
■安心して自宅で最期を迎えられるための条件としては、「いつでも医師や看護師が訪問してくれる体制」が52.6%と最も高く、次いで「容態の急変時など受け入れてくれる病院等」が45.5%となっています。

図表71 安心して自宅で最期を迎えられるための条件



■「治る見込みがない病気にかかった場合、治療によって生活の質が下がるとしても、延命治療を望みますか」という設問については、「延命治療を望まない」が70.3%を占めており、「延命治療を望む」はわずか3.0%です。

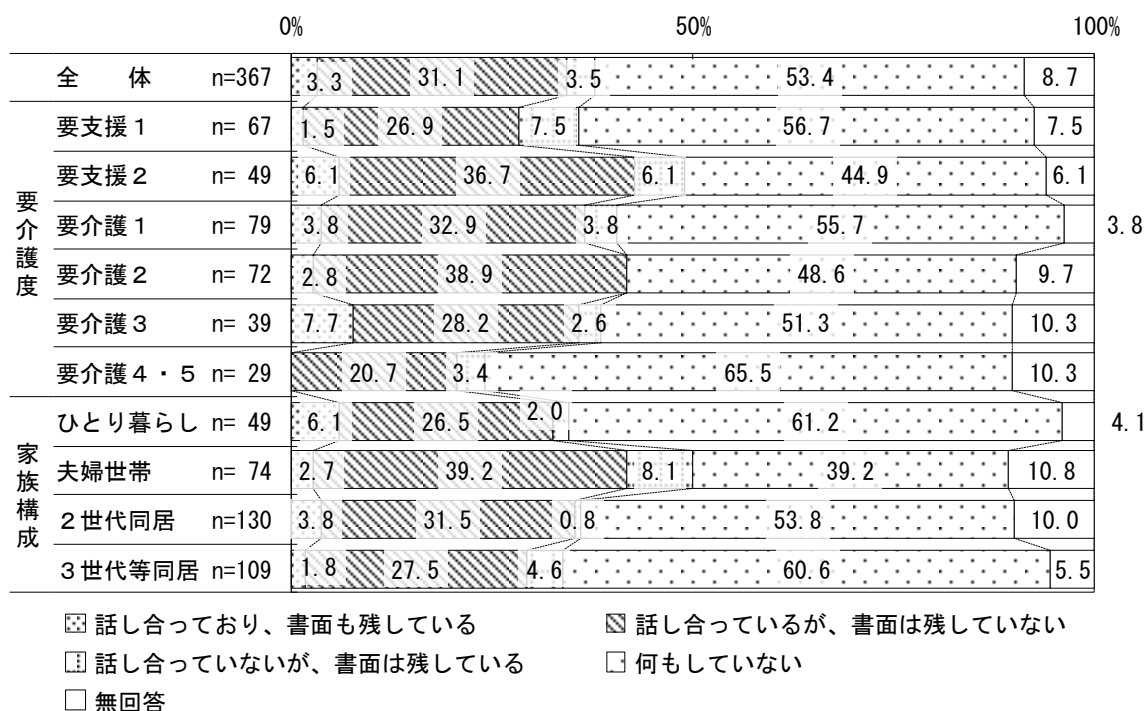
図表72 延命治療を望むか



■ 延命治療を望む ■ 延命治療を望まない ■ わからない □ 無回答

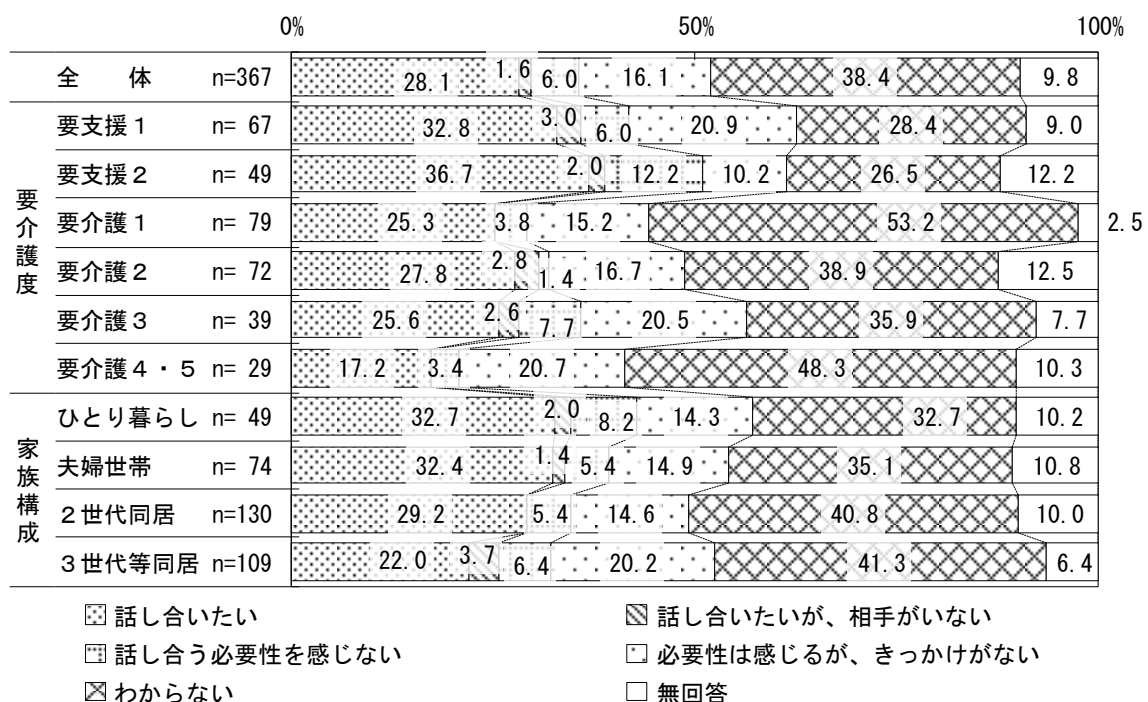
■「ご自身にもしものことがあった場合のことを考えて、日頃から家族（同居していない子どもや親族等を含む）と話し合ったり、書面に残していますか。」という設問については、「何もしていない」が53.4%を占めており、次いで「話し合っているが、書面は残していない」が31.1%などとなっています。「話し合っており、書面も残している」「話し合っているが、書面は残していない」「話し合っていないが、書面は残している」の合計は37.9%ですが、3世代等同居では33.9%と他の家族構成に比べ低くなっています。

図表73 もしものことを考えて、家族と話し合ったり、書面に残しているか



■ 「ご自身にもしものことがあった場合のことを考えて、家族や信頼できる医療・介護の人と話し合いたいと思いますか。」という設問については、「わからない」が38.4%と最も高く、次いで「話し合いたい」が28.1%、「必要性は感じるが、きっかけがない」が16.1%などとなっています。「話し合う必要性を感じない」は6.0%です。要介護度別にみると、「話し合いたい」は軽度ほど高い傾向にあります。

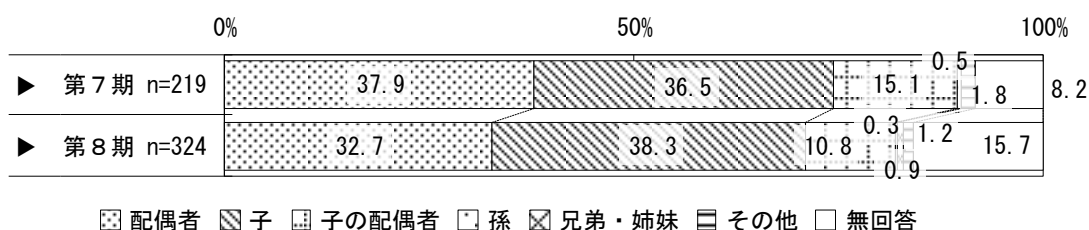
図表74 もしものことを考えて、家族や医療・介護の人と話し合いたいか



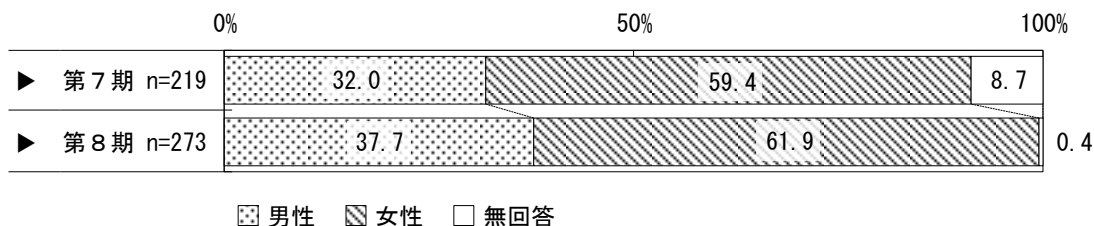
8 介護者について

- 主な介護者としては、「子」が38.3%と最も高く、次いで「配偶者」が32.7%、「子の配偶者」が10.8%などとなっています。第7期の調査結果に比べ「配偶者」が低下した一方、「子」が上昇しています。(図表75)。
- 主な介護者の性別は、「女性」が61.9%を占めています(図表76)。
- 主な介護者の年齢は、「60代」が28.6%と最も高く、次いで「70代」が25.3%、「50代」が21.6%、「80歳以上」が14.3%などとなっています(図表77)。

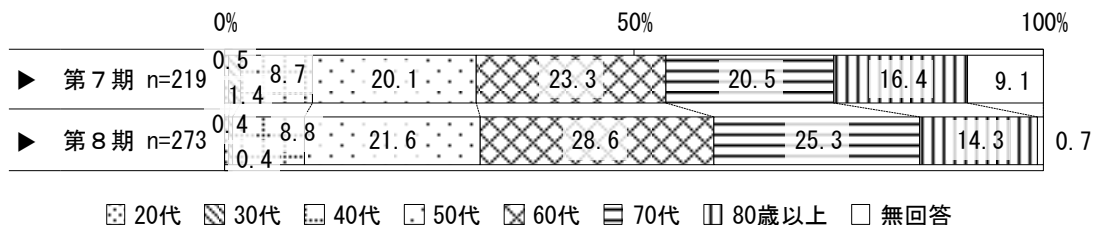
図表75 主な介護者



図表76 主な介護者の性別

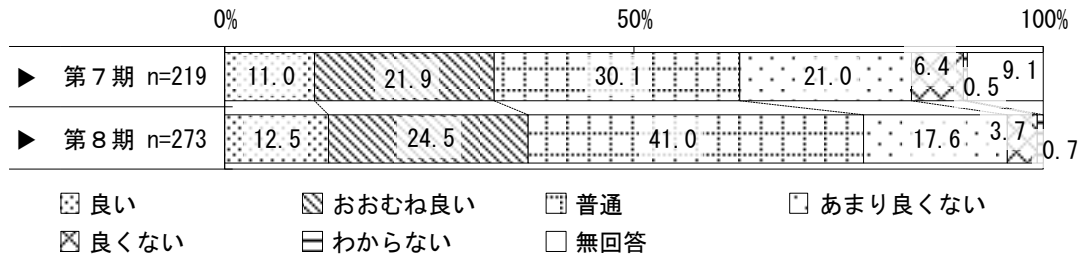


図表77 主な介護者の年齢



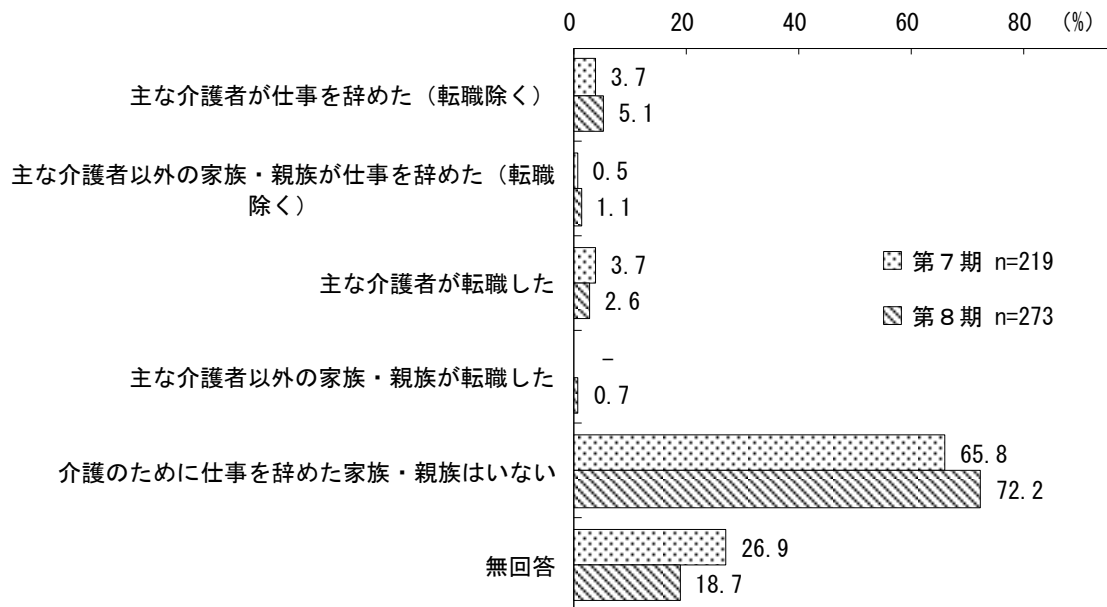
■ 主な介護者の健康状態は、「普通」が41.0%と最も高く、次いで「おおむね良い」が24.5%ですが、「あまり良くない」(17.6%)と「良くない」(3.7%)の合計は21.3%です。

図表78 主な介護者の健康状態



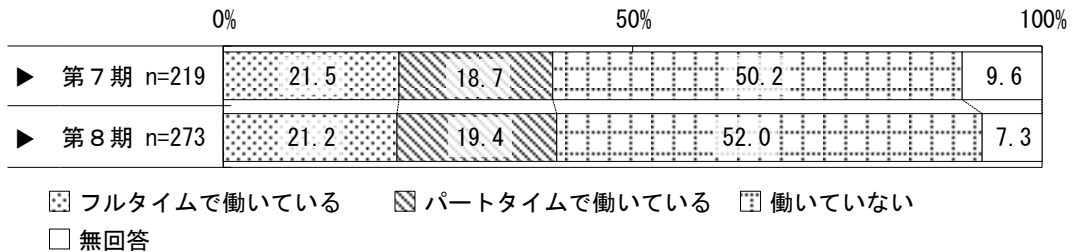
■ 過去1年間における家族・親族の介護を主な理由とした離職については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が72.2%を占めますが、「主な介護者が仕事を辞めた(転職を除く)」が5.1%、「主な介護者が転職した」が2.6%あり、主な介護者の離職・転職や主な介護者以外の家族・親族の離職・転職を合わせると9.5%が介護を理由に離職・転職したことになります。

図表79 介護家族の離職(複数回答)



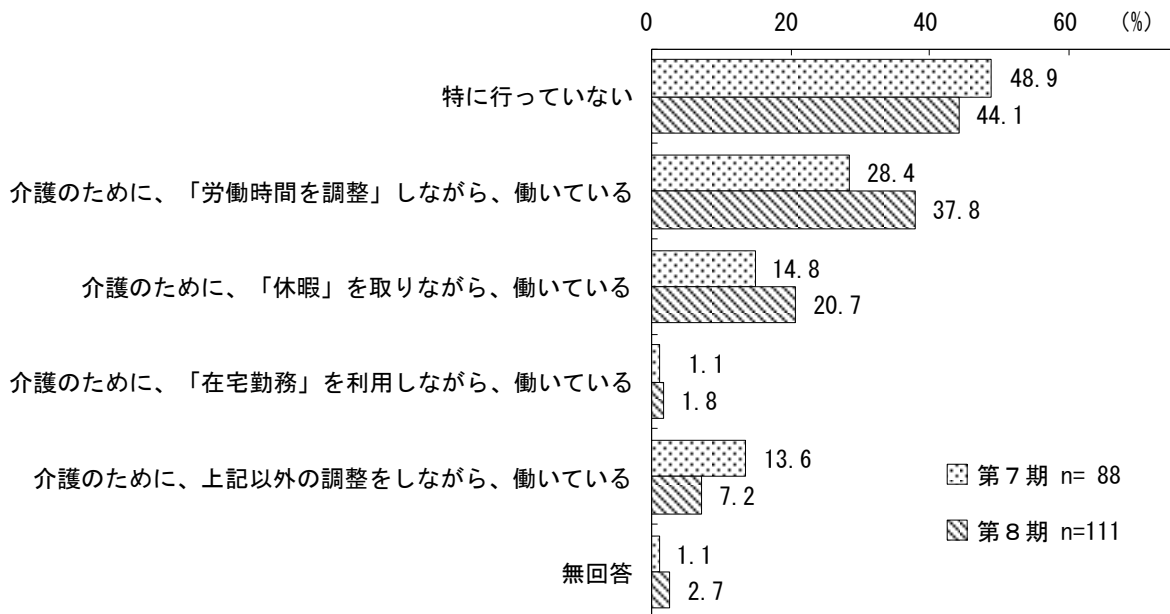
■ 主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が52.0%を占めますが、「フルタイムで働いている」が21.2%、「パートタイムで働いている」が19.4%あり、これらの合計《働いている》は40.6%です。

図表80 主な介護者の勤務形態



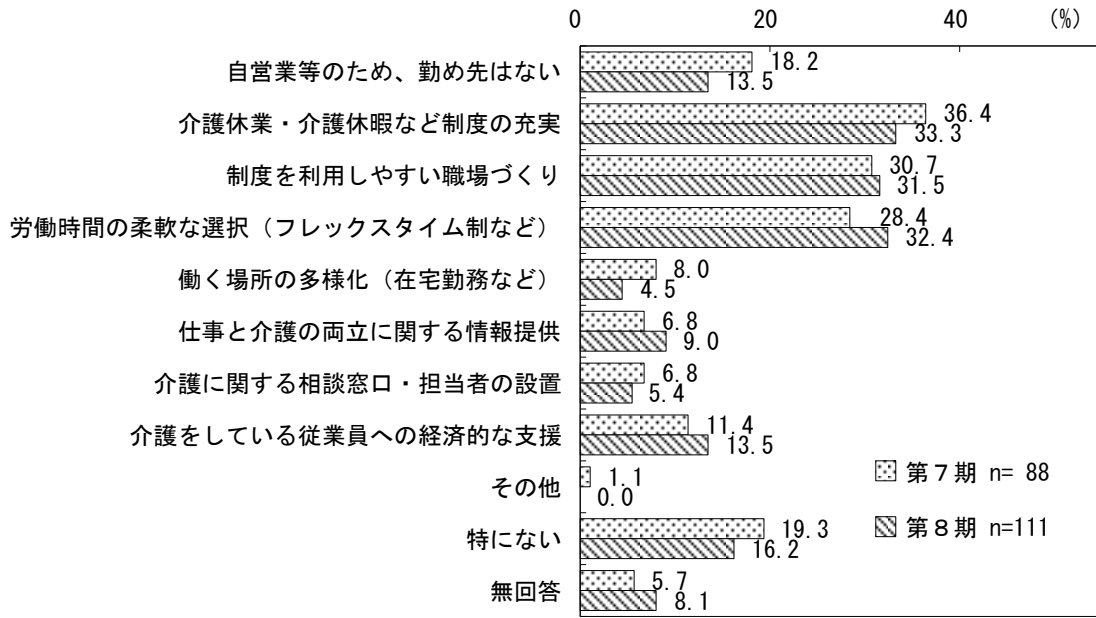
■ 《働いている》主な介護者が介護のためにしている働き方の調整については、「特に行っていない」が44.1%と最も高くなっています。次いで「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅刻・早退・中抜け等）」しながら、働いている」が37.8%、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら働いている」が20.7%「上記以外の調整をしながら、働いている」が7.2%などとなっています。第7期の調査結果に比べ「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅刻・早退・中抜け等）」しながら、働いている」「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら働いている」などが上昇しています。

図表81 主な介護者は、介護のために働き方を調整しているか（複数回答）



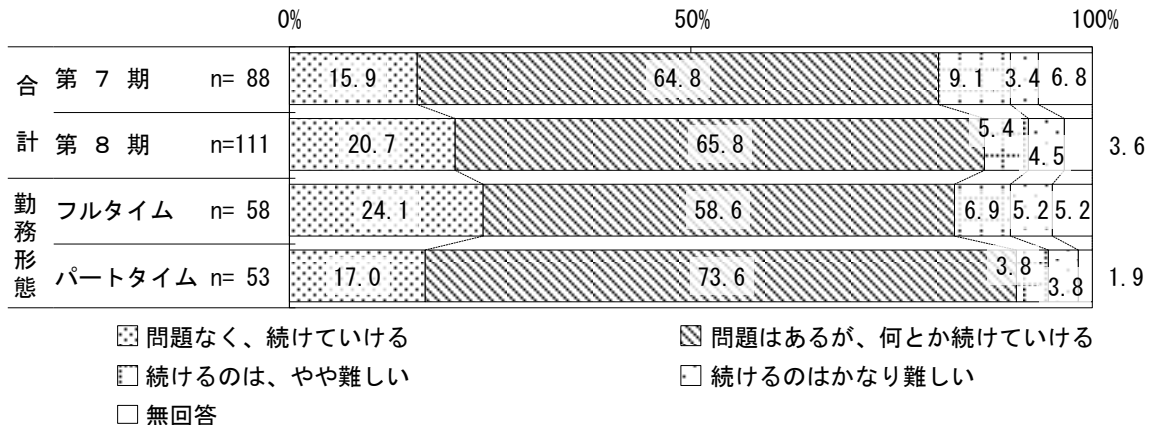
■ 《働いている》主な介護者が、仕事と介護の両立させるために効果があると思う勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇など制度の充実」が33.3%と最も高くなっています。次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が32.4%、「制度を利用しやすい職場づくり」が31.5%などとなっています。

図表82 仕事と介護の両立に効果があると思われる支援（複数回答）



■ 《働いている》主な介護者に対する「今後も働きながら介護を続けていけそうですか」という設問については、「問題はあるが、何とか続けていける」が65.8%を占めています。次いで「問題なく、続けていける」が20.7%となっており、《継続可能》は86.5%となります。一方、「続けるのは、やや難しい」が5.4%、「続けるのはかなり難しい」が4.5%あり、《継続困難》は約10%となります。第7期の調査結果に比べ《継続可能》が高くなっています。

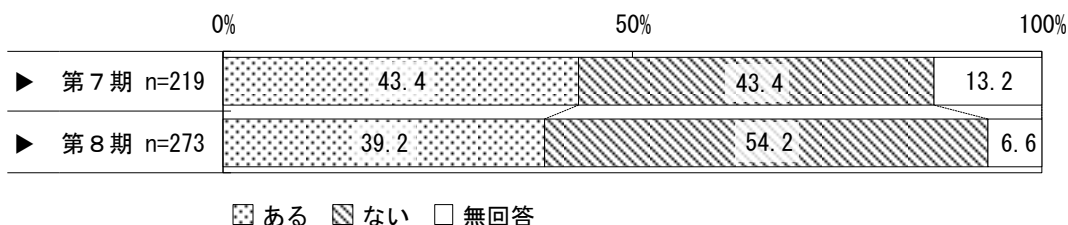
図表83 仕事と介護の両立



9 認知症介護について

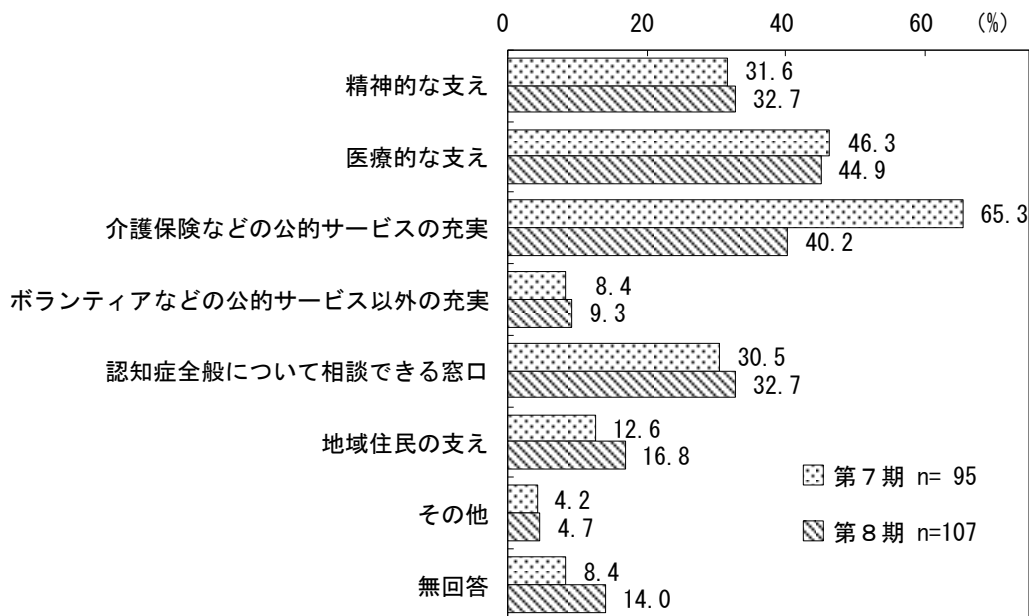
■ 主な介護者からみて要介護者に認知症の症状があるかをお聞きしたところ、39.2%が「ある」と回答しています。

図表84 要介護者に認知症の症状があるか



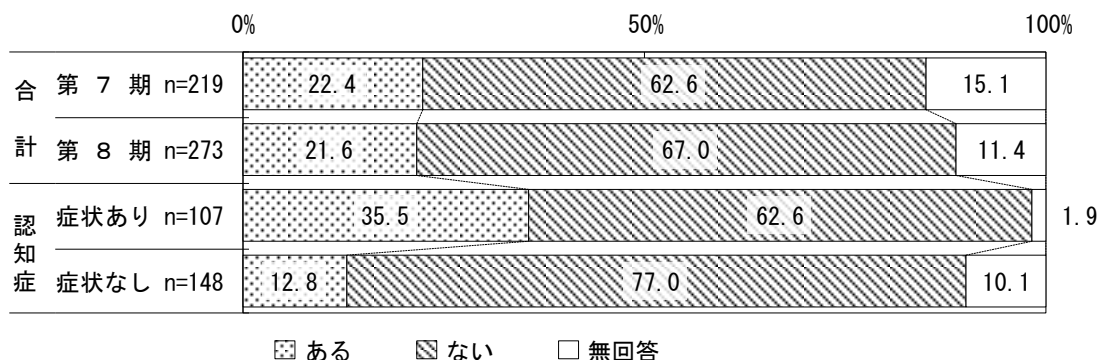
■ 認知症の介護に必要な支援としては、「医療的な支援」が44.9%と最も高く、次いで「介護保険などの公的サービスの充実」が40.2%、「精神的な支援」及び「認知症全般について相談できる窓口」が32.7%などとなっています。第7期の調査結果に比べ「介護保険などの公的サービスの充実」が25ポイント以上低下しています。

図表85 認知症の介護に必要な支援



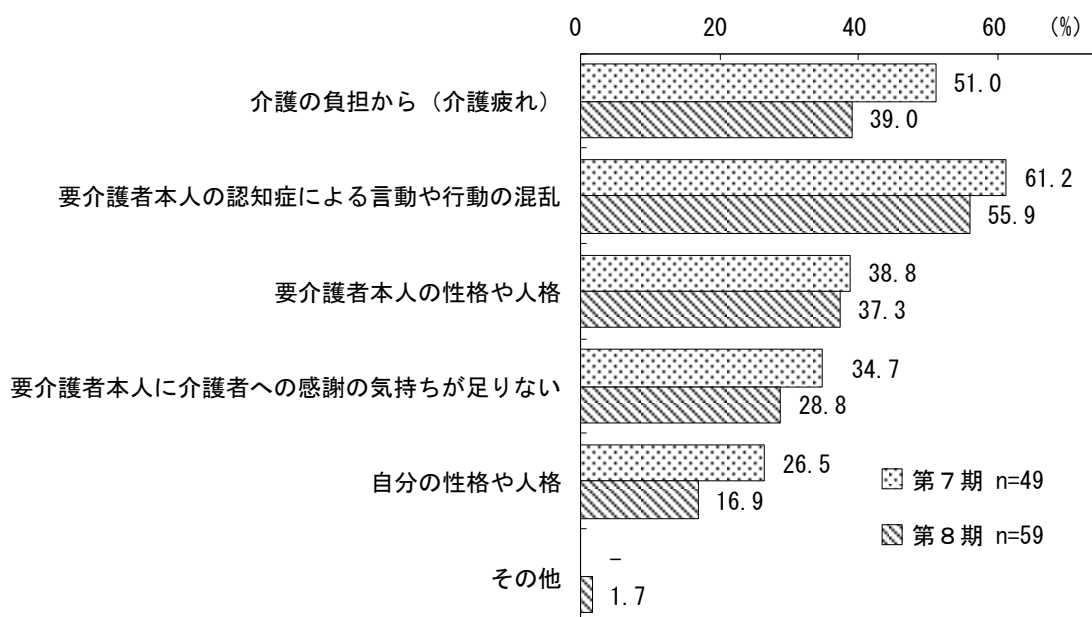
■主な介護者に、思わず虐待をしてしまいそうになったこと、または、したいと思ったことがあるかをお聞きしたところ、「ある」が21.6%でした。どの程度の行為を想定したかによって個人差がかなりあると考えられますが、決して少ない数字ではありません。また、要介護者に認知症がある場合には「ある」が35.5%と高くなっています。

図表86 虐待をしてしまいそうになったこと、または、したいと思ったこと



■思わず虐待をしてしまいそうになったこと、または、したいと思ったことがある人に、その原因をお聞きしたところ、「要介護者本人の認知症による言動や行動の混乱」が55.9%と最も高く、次いで「介護の負担から（介護疲れ）」が39.0%、「要介護者本人の性格や人格」が37.3%などとなっています。第7期の調査結果に比べ「介護の負担から（介護疲れ）」が10ポイント以上低下しています。

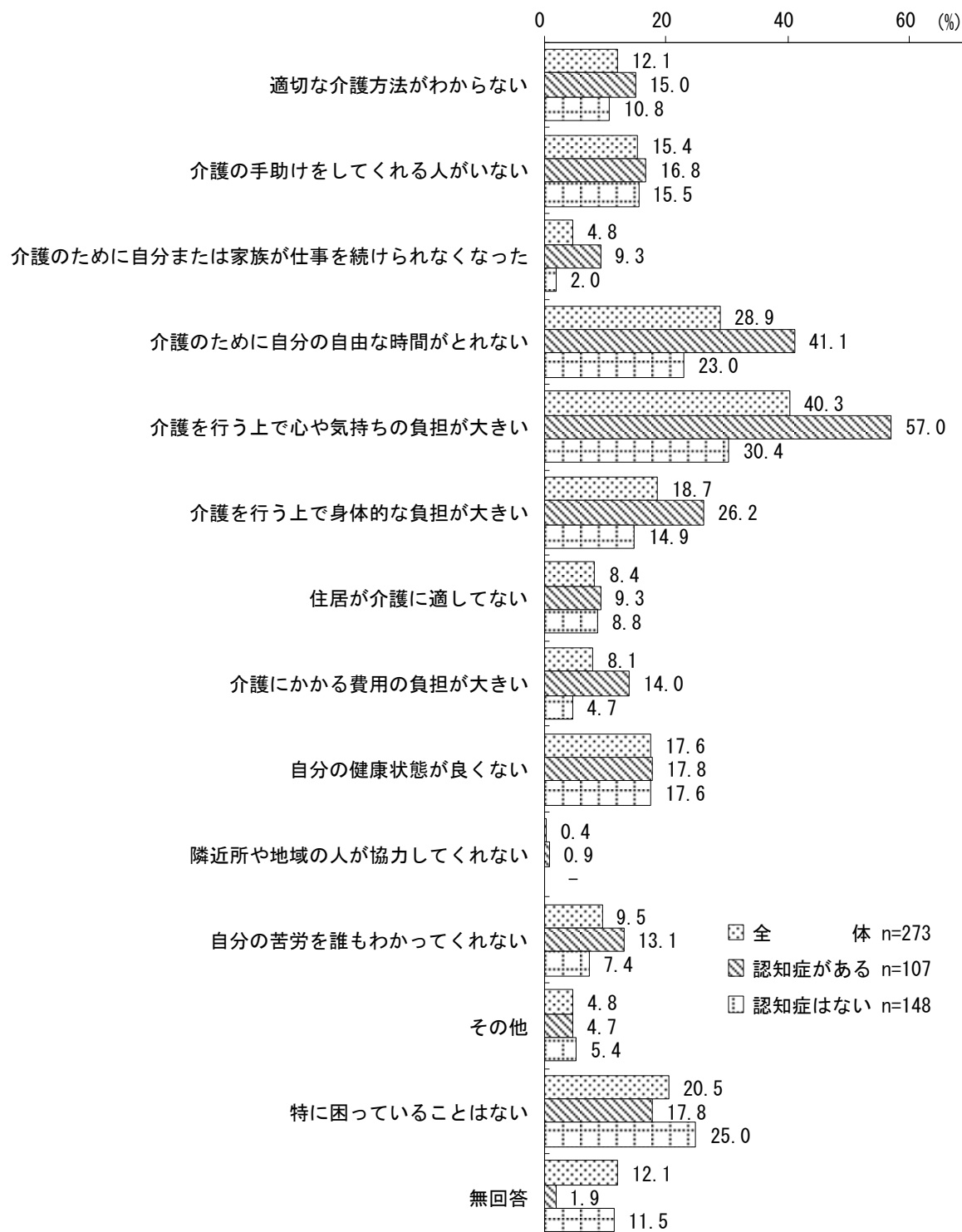
図表87 虐待をしてしまいそうになったこと、または、したいと思ったことの原因



10 介護するうえで困っていること

■介護するうえで困っていることとしては、「介護を行う上で心や気持ちの負担が大きい」が40.3%と最も高く、次いで「介護のために自分の自由な時間がとれない」が28.9%、「介護を行う上で身体的な負担が大きい」が18.7%、「自分の健康状態が良くない」が17.6%などとなっています。要介護者に認知症がある場合は、ほとんどの項目で高い率となっています。

図表88 介護するうえで困ること（複数回答）



11 大口町の高齢者施策に望むこと

■在宅認定者の主な介護者が大口町の高齢者施策に望むこととしては、「施設介護サービスの充実」(28.9%)と「在宅介護サービスの充実」(28.1%)の2項目が突出して高くなっています。第7期の調査結果に比べ全般的に低くなっている中、「災害等の緊急時に高齢者等を支援する体制の充実」や「健康づくりや介護予防のための教室等の充実」などが高くなっています。

図表89 大口町の高齢者施策に望むこと（複数回答）

